

別府大学短期大学部

令和2年度 授業評価報告書

別府大学短期大学部

別府大学短期大学部 令和2年度授業評価報告書の刊行にあたって

別府大学短期大学部 学長 仲嶺 まり子

別府大学短期大学部では、平成27年度から「学生の授業評価アンケート」のデータ及び授業改善点について「授業評価報告書」を毎年刊行している。

そのため、FD委員会では、授業評価アンケートと授業改善に関する一体的事業として、報告書刊行と評価の高かった授業担当者によるFD研修会を実施し、授業改善に関する教員の意識向上と共有化、事業の改善と定着化を図っている。また、令和元年度は授業のピアレビューが実施され好評であったが、令和2年度は、コロナ禍により実施することができなかった。今後は、さまざまな状況下で実施可能なピアレビューの方法を確立することが肝要であろう。

令和2年度は、4月16日に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から全国を対象とした「緊急事態宣言」が発令された。本学では、4月20日よりオンライン授業が開始され、実施状況は一元的に管理運営がなされた。このような状況下、短期大学部ではオンライン授業実施に向けての研修、Web教材の共同作成など、教員が一丸となって「学び」の継続に取り組んだ。前期は実技・実習以外の科目でオンライン授業を実施し、後期は、約8割の科目で対面授業を実施した。そのため、授業評価では、コロナ対策下の授業としての満足度を問うこととした。オンライン授業のみに関するアンケートは、全学生受講の必修1科目を抽出し実施した。以上のような状況を踏まえ、評価結果の受け止めを行うこととする。

前期と後期の全体平均評価を見ると、【Q2】1. 一週間あたりの平均勉強時間では、前期3.04、後期2.67で、オンライン授業が主流の前期が0.37高い。【Q3】6. 授業満足度では、前期4.47、後期4.52と対面授業主流の後期が0.05高い。その他の項目では同評価もしくは0.01～0.02の僅差である。コロナ禍における急なオンライン授業への移行にもかかわらず高評価を得ているのは、教員の対応力、技術力の高さ、努力によるものであり、前後期ともに【Q3】8. の教員の熱意・真剣さが4.62、4.60と最も高く評価されていることから分かる。そのような中、【Q2】1. では、5段階評価の1段階（平均15分以内）の学生の割合が前期7.6%、後期18%と全項目中最も高く、時間外学習の定着化は今後の課題である。

自由記述では、コロナ対策とYouTubeやMoodleの活用による学びの両立についての肯定的記述が見られる反面、自己学習主体への不満やプレゼンテーションが分かりにくい、課題提出期限が不明であるなど、オンライン技術の未熟さに起因すると思われる否定的記述も散見される。これらを踏まえ、今後、オンライン授業の質向上を図るためには、教員・学生ともに、双方向的授業の展開可能なオンライン技術を身に付けることが重要と考えられる。

目次

| | | |
|--|------------------------|----|
| 巻頭言 | 別府大学短期大学部学長 仲嶺まり子…………… | 1 |
| 1. 授業評価アンケート実施要領…………… | | 3 |
| 2. 「私の授業改善プラン」作成手順及び書式…………… | | 9 |
| 3. 令和2年度前期・後期 対象学科別平均点一覧…………… | | 11 |
| 4. 令和2年度前期・後期 学科別評価、学科長見解及び「私の授業改善プラン」 | | |
| (1) 食物栄養科…………… | | 13 |
| (2) 初等教育科…………… | | 23 |

1. 授業評価アンケート実施要領

令和2年度 学生による授業評価アンケート実施要領

別府大学短期大学部

FD 委員会

1. 目的

新型コロナ対策による遠隔授業等（オンライン授業、対面授業）の実施状況や学生の評価から、利点と問題点を洗い出し、今後の改善に役立てる。

2. 実施時期

- (1) 前期授業評価実施期間：令和2年7月27日（月）～8月8日（土）
- (2) 後期授業評価実施期間：令和3年1月12日（火）～1月23日（土）

3. 実施方法

ポートフォリオ学習支援システムを利用しWEB上で実施する。

*アンケート実施手順を参照

4. 対象とする授業科目

全ての授業科目を対象とする。ただし、学外で集中的に実施される実習科目は、質問内容が合致しないため調査対象科目から除外する。なお、非常勤講師が担当する科目は科目数等の関係上、調査対象科目から除外する。

5. 調査項目

- (1) 質問項目の「Q1. あなたの受講態度について」は5項目とする。

- Q1-1. あなたはこの授業を休んだり、課題の提出が遅れたりしないで受講しましたか。
- Q1-2. あなたはこの授業の間、他のことに気をとられず集中して取り組みましたか。
- Q1-3. あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。
- Q1-4. この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。
- Q1-5. この授業のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。

- (2) 質問項目の「Q2. 授業内容について」は8項目とする。

- Q2-1. 新型コロナ対策に沿った授業概要への変更および到達目標について説明されていましたか。
- Q2-2. 学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。
- Q2-3. 教材（テキスト・配布資料）、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。
- Q2-4. 教員の説明（話し方、資料）はわかりやすかったですか。
- Q2-5. 学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。
- Q2-6. 教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。
- Q2-7. 変更後の達成目標は到達できましたか。
- Q2-8. コロナ対策の下での授業として、この授業は満足できるものでしたか。

(3) 質問項目（新規）「オンライン授業について」は5項目とする。

※Q3は個別の授業を対象とする質問ではないので、評価は1度のみ行う。

Q3-1. オンライン（遠隔）授業が適切に用意されていましたか。

Q3-2. オンライン（遠隔）授業の利用方法は十分に案内されましたか。（事前）

Q3-3. オンライン（遠隔）授業の利用に対するサポートは十分に提供されましたか。

Q3-4. オンライン（遠隔）授業など代替授業は、従来の授業に比べて不足のないものでしたか。

Q3-5. あなたの通信環境や機器などで、オンライン（遠隔）授業は不便なく利用できましたか。

(4) 自由記述は「この授業で良いと思う点」、「この授業の改善点」の2項目とする。

6. 集計・分析

(1) Q1・Q2は外部委託、Q3は教務課とFD委員会が行う。

(2) Q1・Q2はそれぞれの科目において集計し、各質問に対する平均値、選択肢ごとの回答の実数及び回答率を算出する。

(3) Q1・Q2・Q3は学科別及び学校全体で算出する。

7. 調査結果の活用

(1) FD委員会は、各教員に本人の評価（質問項目別の数値、自由記述）と学校全体の平均値を比較した結果を通知する。

(2) 各教員は評価結果に基づき「授業改善プラン」を作成しFD委員会に提出する。

(3) FD委員会は、各科の所属する教員の評価結果と授業改善プランを学科長に提出する。

(4) Q3については、FD研修会等で全員に還元する。

8. 調査結果の公表

(1) 授業評価報告書による公表

全学集計結果、学科別集計結果及び分析結果、学科長見解、授業改善プランを集約し、授業評価報告書を発行する。

(2) 大学ホームページによる公表

授業評価報告書の内容を大学ホームページに掲載し公表する。

9. 授業改善への反映

(1) 各教員は、授業評価の結果から得られた所見を積極的に活用し、授業内容の改善に努める。

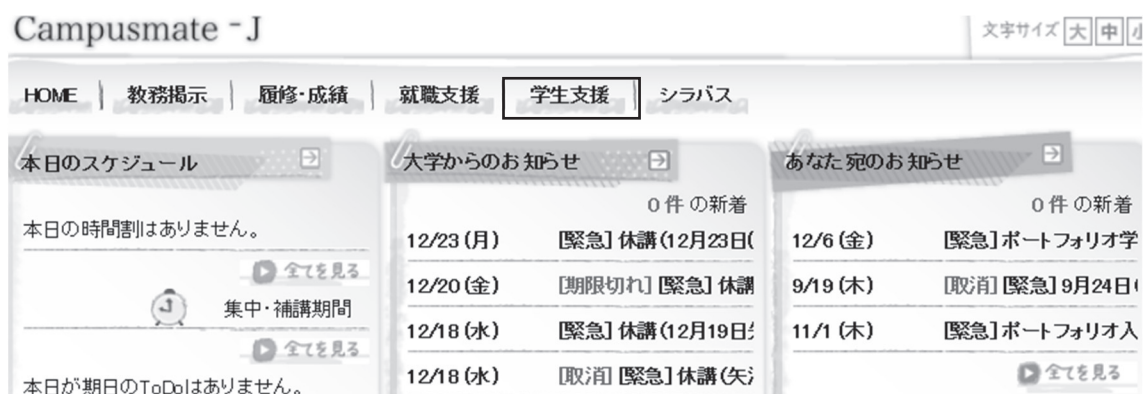
(2) 各教員は、次年度の授業において改善点について学生に伝える。

(3) 学科長は、所属する教員の評価結果と授業改善プランを確認し、評価が極端に低い教員に対して助言を行う。

(4) FD委員会は、授業評価の結果を分析し、FD研修会において、授業評価の高い教員の授業実践例を紹介する機会を設け、教育内容の質の向上に努める。

ポートフォリオ学修支援システムによる授業評価アンケート実施手順

- 在学生ポータル「学生支援」の「ポートフォリオ学修支援システム」へログイン



- ログイン画面



- ① ユーザーID とパスワードを入力しログインをする。

- ポートフォリオ学修支援システムのメニューから「授業評価アンケート」をクリック

The screenshot shows the 'ポートフォリオ学修支援システム' (Portfolio Learning Support System) interface. On the left, a sidebar menu lists various options, with '授業評価アンケート' (Class Evaluation Survey) highlighted. The main content area displays a table of courses with columns for '科目' (Subject), '年学期' (Year/Term), '履修' (Enrollment), '科目 履修' (Subject Enrollment), '評価' (Evaluation), and '記入 状態' (Entry Status). The table lists 15 courses, each with a '評価' button. The first row, 'W90072 世界農業遺産体験学習Ⅱ', has its '評価' button highlighted with a red box.

| 科目 | 年学期 | 履修 | 科目 履修 | 評価 | 記入 状態 |
|---------------------|-----------|----|-------|----|-------|
| W90072 世界農業遺産体験学習Ⅱ | 2020年度 後期 | 有 | ○ | 評価 | - |
| W90071 世界農業遺産体験学習Ⅰ | 2020年度 前期 | 有 | | 評価 | - |
| W80072 科学技術Ⅱ | 2019年度 後期 | 有 | ○ | 評価 | - |
| C70051 認知心理学Ⅱ | 2019年度 前期 | 有 | ○ | 評価 | 確定 |
| C70061 臨床心理学Ⅰ | 2019年度 前期 | 有 | ○ | 評価 | - |
| C70071 臨床心理学Ⅱ | 2019年度 前期 | 有 | ○ | 評価 | - |
| C70081 多変量解析入門 | 2019年度 前期 | 有 | ○ | 評価 | - |
| CB0061 アニメーション基礎技術Ⅰ | 2019年度 前期 | 有 | ○ | 評価 | - |
| CB0071 アニメーション基礎技術Ⅱ | 2019年度 前期 | 有 | ○ | 評価 | - |
| CB0081 CG演習Ⅰ | 2019年度 前期 | 有 | ○ | 評価 | 確定 |
| C90101 演義Ⅰ | 2019年度 通年 | 有 | ○ | 評価 | - |

- ① 履修科目一覧（前期）が表示される。
- ② 回答する科目の詳細ボタンをクリックすると授業評価アンケート回答画面が表示される。

●授業評価アンケート設問回答画面

①設問回答欄

設定された設問に対する回答を入力します。
回答期間内のアンケートのみ入力が可能です。

②下書き保存ボタン

入力した内容を保存します。

③確定ボタン

入力した内容を登録します。

④戻るボタン

授業評価アンケート一覧画面に戻ります。

2. 「私の授業改善プラン」作成手順及び書式

2020（令和2）年度 「私の授業改善プラン」 作成の手順

1. 作成手順

- ① 前回の「授業改善プラン」に記述した内容のうち、今期の授業で実践したことを「今回の改善点」の欄に100字程度で記入する。ただし、本年度前期は多くの授業がオンライン授業であったことから、新たな取り組みや工夫を加味した記述となる。
- ② 授業評価アンケート結果を受けて、先生方ご自身がどのように受け止めたかを、「評価結果の受け止め」と「自由記述の受け止め」に分けて、それぞれ100字程度で記入する。
- ③ 「評価結果の受け止め」、「自由記述の受け止め」の欄に記入したことを踏まえて、なぜそのような結果となったかの要因を先生方ご自身で分析して、「結果の要因」欄に100字程度で記入する。
- ④ 「結果の要因」欄に記入したことを踏まえて、後期以降の授業をどのように改善するのか、「授業改善プラン」欄に具体的な方策について200字程度で記入する。特に、オンライン授業の際の工夫や改善については必ず記述すること。

2. 提出締切

令和2年12月4日（金）まで ※メールで各科のFD委員に提出

3. 留意事項

- 記入にあたっては、他の教員と、今回の結果を交換するなどして、意見交流を行うとより効果的な「私の授業改善プラン」を作成できると考える。各自検討すること。
- 「今回の改善点」→「評価結果の受け止め」、「自由記述の受け止め」→「結果の要因」→「授業改善プラン」と相互の関連性が分かるように記入することが大切。

4. 記入例

今回の改善点（100字程度）

今期はオンライン授業中心だったため、模擬授業の実施が難しかった。しかし、実践までの間、moodle上で事前の準備から指導案の作成、結果の振り返りまで、学生が主体的に取り組むことが出来るように適宜必要な課題を課し、一人一人にコメントを返した。また、学生作成の資料について、moodle上で共有できるように工夫した。

評価結果の受け止め（100字程度）

オンライン授業中心であったが評価の得点は概ね良好であった。Q2-5「学生が質問や意見を述べられるような配慮」については、毎回質問を受けたことに対して「質問への対応コーナー」を設けてPPT上で対応し、双方向のコミュニケーションを図るよう努めたことが効果的だったと思われる。

自由記述の受け止め（100字程度）

自由記述欄では、説明の詳しさや対応の丁寧さにおいて高評価を受けているようだ。対面授業時と比較してPPTはスライド数を増やして文字による説明を具体的に加味した。準備には時間を要するがこのような対応はオンライン授業では必要であったことが確認できた。



結果の要因（100字程度）

オンライン授業でも双方向のやり取りができるように工夫することで、学生の満足度につながることが分かった。ただし、模擬授業や集団討論をするためには、対面授業との組み合わせも必要であると考えます。

授業改善プラン（200字程度）

対面授業ができない場合でも、オンライン授業の資料提示方法や学生の声を反映するPPT等資料の工夫で対面授業よりも効果的なこともあることが分かった。ただし、言葉でいろいろなエピソードを加味することができない等のプラスαの情報提示に限界があることや学生がどれだけ集中して授業に取り組んだかは、課題のフィードバックだけでは判断できない。課題が多くなりすぎない課題提示の方法等を含め今後改善していきたい。

令和2年度 私の授業改善プラン（案）

所属

氏名 _____

今回の改善点（100字程度）

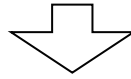
私は、今期の授業（オンライン授業を含む）を行うにあたって、次のことを実践した！

評価結果の受け止め（100字程度）

私は、今回の授業改善アンケートの評価結果を見て、次のように受け止めた！

自由記述の受け止め（100字程度）

私は、今回の授業改善アンケートの自由記述を見て、次のように受け止めた！



結果の要因（100字程度）

私は、今回の授業改善アンケートの結果を、次の要因によるものとする！

授業改善プラン（200字程度）

今後の授業（オンライン授業の工夫改善）を、私は次のように改善する！

3. 令和2年度前期・後期 対象学科別平均点一覧

学生による授業評価アンケート 2020年度 前期 教員所属学科別平均点一覧

| 教員所属学科 | 科目数 | 回答枚数 | 学生の自己評価 [Q1] | | | | 授業外学習時間 [Q2] | 授業の評価 [Q3] | | | | | | | |
|--------|-----|------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------|---------------------------------|--|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 食物栄養科 | 44 | 751 | あなたはこの授業を休んだり、課題の提出が遅れたり受講しませんでしたか。 | あなたは他の授業の間、他のことに気をとられず集中して取り組みましたか。 | あなたは他の授業に意欲的に取り組んでいますか。 | この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んでいますか。 | この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 初等教育科 | 128 | 3426 | 4.38 | 4.53 | 4.49 | 4.43 | 3.30 | 4.58 | 4.55 | 4.55 | 4.54 | 4.55 | 4.68 | 4.52 | 4.48 |
| 大学所属教員 | 16 | 141 | 4.53 | 4.57 | 4.59 | 4.61 | 3.00 | 4.52 | 4.50 | 4.52 | 4.53 | 4.51 | 4.61 | 4.51 | 4.47 |
| 非常勤 | 35 | 323 | 4.46 | 4.67 | 4.67 | 4.59 | 2.87 | 4.62 | 4.53 | 4.51 | 4.57 | 4.48 | 4.70 | 4.57 | 4.49 |
| 全体 | 223 | 4641 | 4.51 | 4.56 | 4.58 | 4.58 | 3.04 | 4.52 | 4.50 | 4.52 | 4.53 | 4.51 | 4.61 | 4.51 | 4.47 |

学生による授業評価アンケート 2020年度 後期 教員所属学科別平均点一覧

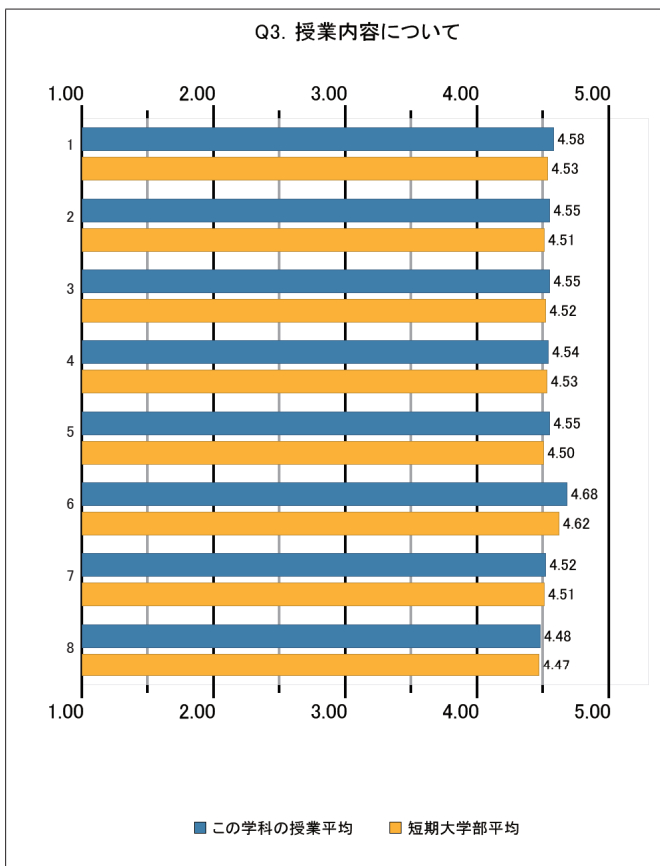
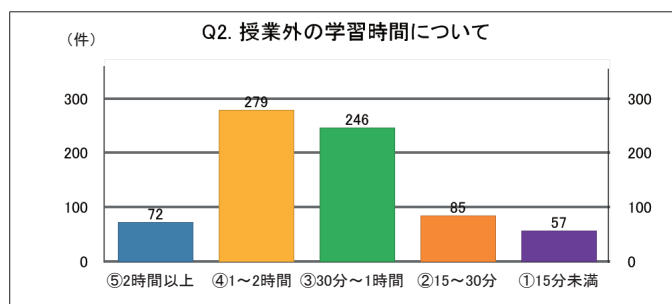
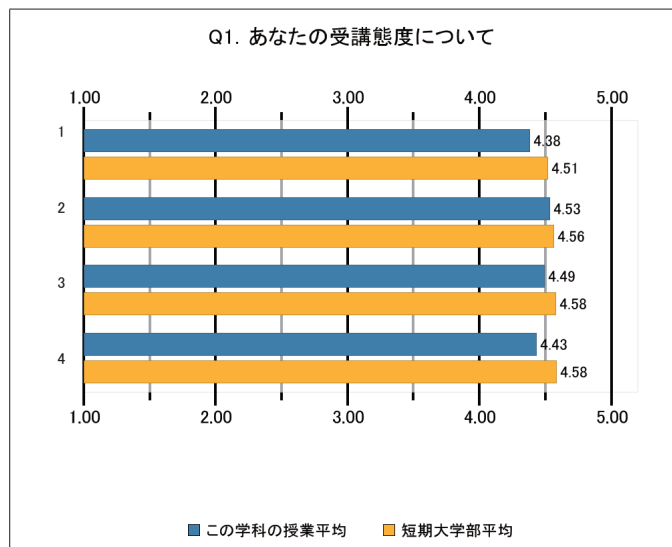
| 教員所属学科 | 科目数 | 回答枚数 | 学生の自己評価 [Q1] | | | | 授業の評価 [Q3] | | | | | | | | 授業外学習時間 [Q2] | |
|--------|-----|------|--------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|------------|------|------|------|------|------|------|---|--------------|------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 1 | 2 |
| | | | あなたはこの授業を休んだり、課題の提出が遅れたりしないで受講しましたか。 | あなたはこの授業の間、他のこととに気をとられず集中して取り組みましたか。 | あなたはこの授業に意欲的に取り組んでいますか。 | あなたはこの授業の内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んでいますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | | |
| 食物栄養科 | 40 | 682 | 4.48 | 4.57 | 4.57 | 4.58 | 4.59 | 4.59 | 4.60 | 4.57 | 4.67 | 4.59 | 4.57 | | 2.76 | 4.52 |
| 初等教育科 | 136 | 3449 | 4.51 | 4.55 | 4.56 | 4.58 | 4.49 | 4.50 | 4.50 | 4.46 | 4.58 | 4.49 | 4.46 | | 2.65 | 4.52 |
| 全体 | 176 | 4131 | 4.51 | 4.55 | 4.56 | 4.58 | 4.50 | 4.50 | 4.50 | 4.48 | 4.60 | 4.50 | 4.48 | | 2.67 | 4.52 |

4. 令和2年度前期・後期
学科別評価、学科長見解及び「私の授業改善プラン」

(1) 食物栄養科

(2) 初等教育科

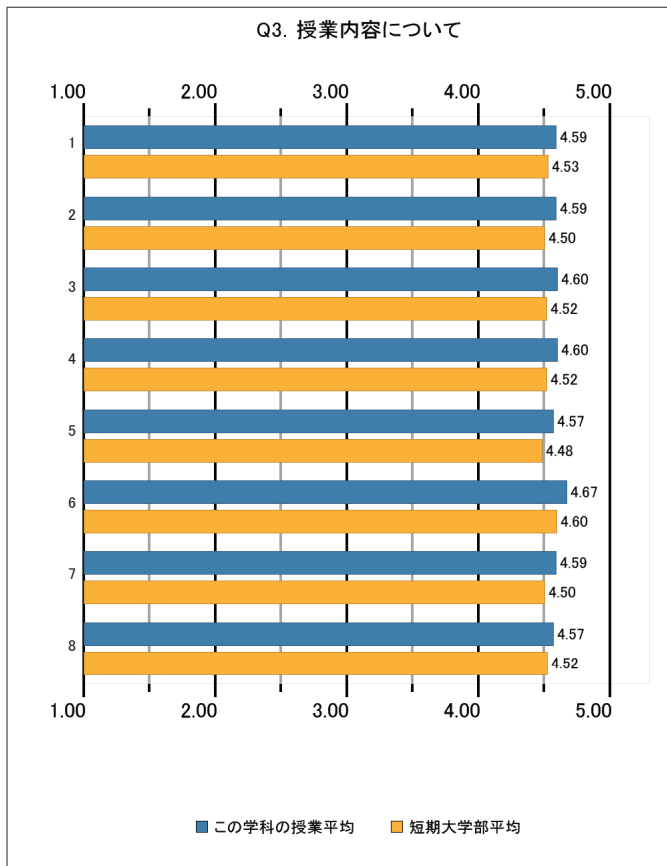
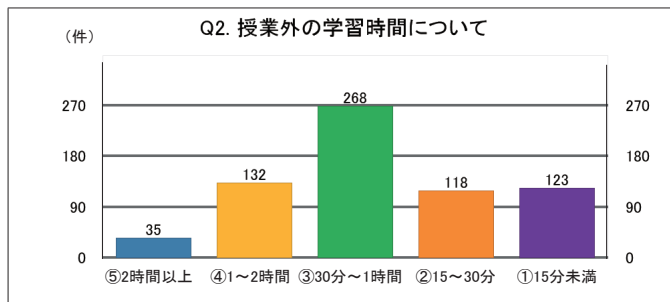
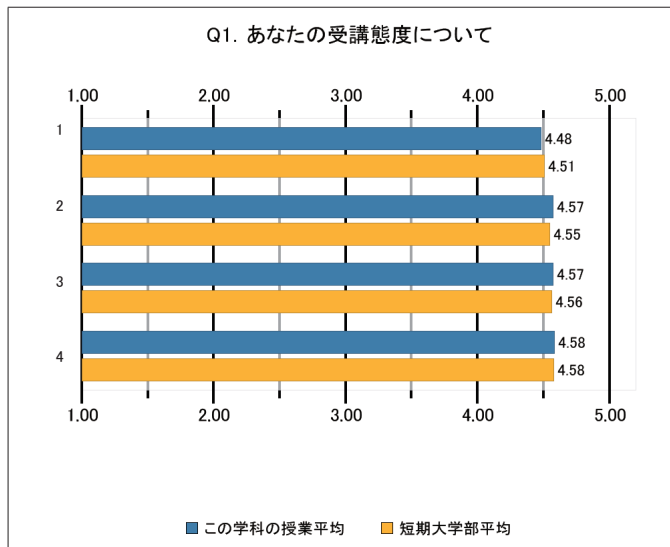
学科別集計 食物栄養科



上段: 回答者数 / 下段: 割合

| 設問 | 5. そう思う | 4. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない | 2. どちらかといえばそう思わない | 1. そう思わない | あなたの講義 | 全体平均 |
|--------|--------------------|----------------------|------------------------|----------------------|--------------------|--------|------|
| [Q1] 1 | 451 60.1% | 177 23.6% | 61 8.1% | 40 5.3% | 10 1.3% | 4.38 | 4.51 |
| [Q1] 2 | 466 62.1% | 206 27.4% | 58 7.7% | 8 1.1% | 1 0.1% | 4.53 | 4.56 |
| [Q1] 3 | 445 59.3% | 225 30.0% | 56 7.5% | 12 1.6% | 1 0.1% | 4.49 | 4.58 |
| [Q1] 4 | 442 58.9% | 204 27.2% | 64 8.5% | 24 3.2% | 5 0.7% | 4.43 | 4.58 |
| [Q2] 1 | (2時間以上) 72 9.6% | (1～2時間) 279 37.2% | (30分～1時間) 246 32.8% | (15～30分) 85 11.3% | (15分未満) 57 7.6% | 3.30 | 3.04 |
| [Q3] 1 | 485 64.6% | 202 26.9% | 50 6.7% | 1 0.1% | 1 0.1% | 4.58 | 4.53 |
| [Q3] 2 | 470 62.6% | 209 27.8% | 55 7.3% | 4 0.5% | 1 0.1% | 4.55 | 4.51 |
| [Q3] 3 | 478 63.6% | 201 26.8% | 51 6.8% | 6 0.8% | 3 0.4% | 4.55 | 4.52 |
| [Q3] 4 | 493 65.6% | 172 22.9% | 57 7.6% | 12 1.6% | 4 0.5% | 4.54 | 4.53 |
| [Q3] 5 | 486 64.7% | 184 24.5% | 63 8.4% | 3 0.4% | 3 0.4% | 4.55 | 4.50 |
| [Q3] 6 | 548 73.0% | 147 19.6% | 38 5.1% | 4 0.5% | 1 0.1% | 4.68 | 4.62 |
| [Q3] 7 | 452 60.2% | 225 30.0% | 57 7.6% | 2 0.3% | 3 0.4% | 4.52 | 4.51 |
| [Q3] 8 | 446 59.4% | 223 29.7% | 56 7.5% | 10 1.3% | 4 0.5% | 4.48 | 4.47 |

学科別集計 食物栄養科



上段: 回答者数 / 下段: 割合

| 設問 | 5. そう思う | 4. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない | 2. どちらかといえばそう思わない | 1. そう思わない | あなたの講義 | 全体平均 |
|---|--------------------|----------------------|------------------------|-----------------------|----------------------|--------|------|
| [Q1] 1 あなたはこの授業を休んだり、課題の提出が遅れたりしないで受講しましたか。 | 430 63.0% | 165 24.2% | 63 9.2% | 11 1.6% | 7 1.0% | 4.48 | 4.51 |
| [Q1] 2 あなたはこの授業の間、他のことに気をとられず集中して取り組みましたか。 | 428 62.8% | 207 30.4% | 37 5.4% | 3 0.4% | 1 0.1% | 4.57 | 4.55 |
| [Q1] 3 あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。 | 432 63.3% | 200 29.3% | 37 5.4% | 5 0.7% | 1 0.1% | 4.57 | 4.56 |
| [Q1] 4 この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。 | 448 65.7% | 182 26.7% | 37 5.4% | 7 1.0% | 2 0.3% | 4.58 | 4.58 |
| [Q2] 1 この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。 | (2時間以上) 35 5.1% | (1～2時間) 132 19.4% | (30分～1時間) 268 39.3% | (15～30分) 118 17.3% | (15分未満) 123 18.0% | 2.76 | 2.67 |
| [Q3] 1 新型コロナ対策に沿った授業概要への変更および到達目標について説明されましたか。 | 468 68.6% | 151 22.1% | 47 6.9% | 4 0.6% | 5 0.7% | 4.59 | 4.53 |
| [Q3] 2 学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。 | 460 67.4% | 161 23.6% | 51 7.5% | 2 0.3% | 2 0.3% | 4.59 | 4.50 |
| [Q3] 3 教材(テキスト・配布資料)、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。 | 467 68.5% | 154 22.6% | 49 7.2% | 3 0.4% | 2 0.3% | 4.60 | 4.52 |
| [Q3] 4 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。 | 468 68.6% | 151 22.1% | 50 7.3% | 4 0.6% | 2 0.3% | 4.60 | 4.52 |
| [Q3] 5 学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。 | 453 66.4% | 168 24.6% | 46 6.7% | 6 0.9% | 3 0.4% | 4.57 | 4.48 |
| [Q3] 6 教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。 | 495 72.6% | 141 20.7% | 34 5.0% | 2 0.3% | 2 0.3% | 4.67 | 4.60 |
| [Q3] 7 授業の達成目標は到達できましたか。 | 460 67.4% | 162 23.8% | 51 7.5% | 2 0.3% | 1 0.1% | 4.59 | 4.50 |
| [Q3] 8 コロナ対策の下での授業として、この授業は満足できるものでしたか。 | 464 68.0% | 155 22.7% | 46 6.7% | 2 0.3% | 9 1.3% | 4.57 | 4.52 |

食物栄養科

授業評価に関する学科長見解（学科長 海陸留美）

（令和 2 年度前期）

学生の自己評価である Q1 について、短大平均より若干下回るが 4.38～4.53 と高い評価であり、学生自身が授業に意欲的に取り組んだ努力がうかがえた。

Q2 の 1 週間あたりの授業時間外学習時間は、短大平均より上回る結果となった。学習時間が長い学生は、2 時間以上が 9.6%、1～2 時間が最も多く 37.2%、30 分～1 時間が 32.8%であった。約 8 割の学生が 30 分以上の学習をしており、オンライン授業の影響もあると思うが、昨年度と比較して学習時間が増えていることがわかった。また、学習時間が短い学生（30 分未満）は約 2 割おり、授業時間外学習に意欲的に取り組めるような課題や学習内容の設定が必要であると思われた。

Q3 について、コロナ禍における授業対応に関する設問も追加されたが、全ての項目において短大平均を上回る高い評価を得ており、学生の授業に対する満足度は高かったと言える。しかし、オンライン授業時におけるウェブ上での課題の出し方（課題の量と頻度、提出方法等）について、学生から工夫と改善を求める声も聞かれたため、今後見直し検討する必要がある。

（令和 2 年度後期）

Q1 の学生の自己評価では、短大平均より若干下回るものの、全ての項目において前期より評価が高くなった。後期からほとんどの授業を対面授業で実施したことが影響し、積極的に授業に取り組めたことが推察できる。

Q2 の 1 週間あたりの授業時間外学習時間は、短大平均より上回る結果ではあるが、前期と比較すると時間数が少なくなった。オンライン授業が少なくなると授業時間外学習が少なくなる傾向が見られた。

Q3 の授業評価については、前期と同様に全ての項目で高得点の評価になり、授業の達成度と満足度は高かったと言える。後期の授業は、ほとんどの授業で対面授業を実施できたことが影響していると思われた。今後もオンライン対応も含めたより良い授業内容の改善に努めていきたい。

令和2年度 「私の授業改善プラン」 集約一覧

【食物栄養科 前期】

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|----------------------|--|--|--|--|---|
| 海陸 留美 | 臨床栄養学各論 臨床栄養学実習 I | 講義は全15回すべてをオンデマンド型のオンライ授業で実施したため、学生が自習できるように教材・資料をすべて作り替えて対応した。オンライ授業で重要な内容はプリント課題にして復習できるように工夫した。実習の方は、最初の5回のみオンライ授業だったが、実習の内容をオンデマンド型の授業のみで実施するのは困難を要したため、リアルタイム(Zoom)による治療食の調理デモ等を活用して実施した。 | 講義はオンライ授業中心であり、高評価の得点は全体平均より高く概ね良好であった。授業外の学習時間は対面授業の時より増えており、自習でききょうに資料を作り替えたことが良かったと思われた。実習はほとんど対面授業で実施できたため、例年と変わら概ね良好の結果が得られた。 | 自由記述では、オンライになり自分で勉強できるか不安がありあなたが、プリントや資料がわかりやすく図解されており、意欲的に取り組むことができたといい内容が多かった。実習ではわかりやすかったという意見が多い一方で、聞き取りにくい部分があった等々のネット環境に影響する意見もあった。また、課題を自分でプリントアウトして提出しなければならぬという意見も多かった。 | 初めてのオンライ授業で資料作成等に苦慮したが、学生が自習しやすい資料づくりを工夫することができ、概ね良好の結果が得られ学生の満足度も高かった。来年度以降に対面授業に変わっても今回作成した資料を継続して使っていきたい。 | オンライ授業の回数が増える時期には、課題の内容や提出方法にも配慮する必要があると考えた。授業評価以外に年に1度、代表学生から授業改善に関する意見聴取を行っているが、その場においてもオンライ授業時の課題の量と質、提出方法をもっと出して欲しいという意見が多く出された。今回は急遽オンライ授業に切り替わったため、教員側もどのようにオンライ授業を実施して課題を出せば良いかわからず、自分の担当する授業の課題を出すだけで精一杯だった。今回の学生の意見を参考に、学科全体でオンライ授業時の課題の出し方について検討し見直す必要があると思われた。 |
| 真部 健一 | 英語コミュニケーション 教育学概論 | 今期の前半はオンライ授業であるため、コミュニケーションを図りながら進めることを特色とするこれまでの授業のすすめる方が実施できなかった。対面授業になっからには丁寧に、わかりやすい授業の次に努めてきたが、学生との相互理解を深めるまでにはもうすこし時間がかかるとの気がする。オンライでの演習科目の指導方法については更に検討する必要がある。 | 4月当初からの学生との接触のないオンライ授業の実施は、授業の本来のねらい、すめ方、学生とのコミュニケーションの促進等の点で、例年より厳しめに思われる。 | 対面授業では楽しく、わかりやすい授業を目指しているが、それなりの高評価を受けているように思われる。英語を苦手とする学生の声は大きな励みになる。 | 4月当初からの学生との接触のないオンライ授業の実施、生とのコミュニケーションの不足、オンライ授業における演習科目を中心とした指導方法の検討の不足が要因と思われる。 | 対面授業でこれまでとおり一人一人の学生を大切に、わかりやすい授業、楽しい授業を目指して工夫改善していきたい。オンライ授業の指で研究する必要がある。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|--|---|--|--|--|---|
| 岡本 昭 | 生物学 食品衛生学実験 公衆衛生学概論 食品衛生学 食生活論 | 今回はオンライン授業が多 く、資料の作成から始まり、 音声で学習資料をつくるなど 新しい試みが増えた。 当初はほとんどの授業がオ ンラインとなり、開始も遅れ たので、学生の混乱も多かった。そ ろろの意見をもとに、授業開始を メールで連絡することや積極 的にメッセージを受け取るよ うにした。 | これまで設問の多くの点で全 体平均に届かないところが多々 あったが、改善プラン時に考察 し、改善を図ることによって、今 全体平均に届くようになった。 課題の提出など実態と学生のこ 感覚とは大きく異なっているこ とを感じた。 | オンラインの授業では、オン デマンドでスライドに音声を入 れて講義を行った。そのスライ ド等の評価がよかったので、今 後の対面授業でも継続してい たい。 また、熱意があるとの意見も あり、正直嬉しく感じている。 一方、分からないとの声もあり、 多様性のある学生らをもっと満 足させることの困難さを感じて いる。 | これまでの対面授業でもスラ イドを用いて授業をしてきた が、オンドemandではさらにス ライドをブラッシュアップし た。音声も何回もやり直しがき くので、活舌等発声に注意する ことでもできた。特に実験等のス ライドでは助手の先生に手伝わ ていた自分たちが実施して いる実験の様子を収め、学生に 近い形で見せることができた と考えている。 | オンラインでの授業は一定の方法 と効果について認められては、出席、 課題と課題の評価については問題が 残った。オンラインでの課題ができ ない(出席にならない)また質問す ることもできない学生に対し、対面 する機会を多く設ける必要性を感じ ている。 また、課題の評価では提出資料を まとめる学生にたずねることはでき たが、一人一人の提出した評価をす べて行うことは困難だった。今後、提出 に関する簡易な方法であって、も たいたいと考える。 |
| 工藤 孝一 | 法学(日本国憲法) ●教育方法論 ○教育課程論 英語コミュニケーション | 前半はほとんどがオンライン で、後半も一部がオンライン のままだった。課題プ リントの解答を配布する際に 項目ごとにできるだけ詳しい 解説や資料を添付するように した。moodle上で質問がで きるようにして、こまめに実 施した授業では、パワーポイ ント等で提示する教材や資料 について見直しを行った。 | オンライン授業と対面授業の 両方について概ね良好だった。 特に、教材(テキスト・配布資 料)、教具の利用に関してには比 較的高めの評価があり、上記の 改善の結果だと考えている。 | オンライン授業、対面授業と もに、教材ポイントやワーク シート、パワーポイントがわか りやすいという記述があった。 また、オンラインで配信したプ リントでは、解説がわかりやす かったという記述もあり、慣れ ない moodle で苦労したか いがあった。準備に時間がかか ったが、必要な対応だったと考 えている。 | オンライン授業に向けての授 業プリントやワークシートの改 訂及びパワーポイントの改良な どが、比較的うまくいったと考 えられる。 | 前期の授業での学生の受け止めが わりとよかつたので、授業プリント やワークシート、パワーポイン トの提示資料などの改善をさら に進めたい。 また、オンライン授業の実施に伴 い moodle を使用することで、その有 効性と可能性を感じたので、moodle を一層活用して、毎時間の小テスト の実施や出欠確認、授業中の意見の 集約なども行ってみたいと考 えている。 |
| 衛藤 大青 | 食品学 情報リテラシー 基礎演習 食品加工学 栄養情報処理 フードスベジヤリ スト論 | オンライン授業を行うにあ たって、学生がなるべく違和 感なくスムーズに学習できる よう、動画を撮影して公開す るなど平常時に行っていた対 面授業の方式をそのままオン ラインに落とし込むように、 moodle の設定などを行った。 | 全担当科目を通して Q3-3 の 評価が高かった。また Q3-5 も 良い評価を貰っていたように思 う。一方で、特に演習系の科目 では Q3-2 の評価が低かった。 また Q3-8 の評価も、平均と比 べると低いものとなった。 | Zoom や動画を用いて対面授 業に近い形の授業を受けること ができたので良かった」という 意見が見られた。 他にも「スライドがわかりや すかった」や「質問にすかさ ず対応してくれた」という意見 も得られていた。改善点として は特にパソコンを扱う授業で 「対面でないとかかりにくい」 「グループで作成するものは対 面で実施してほしい」という意 見があった。 | 授業の動画を作成し、moodle 上にアップすること、当初の 目的と対面に近い形の授業 が Q3-3 や Q3-5 の評価、およ び自由記述の評価に繋がったと 考えられる。 一方で、学生からの質問など をリアルタイムで聞くという双 方向型の授業の実践が出来な かったことが、演習系の科目で の評価の低さに繋がったと考 えられる。 | 引き継ぎ、オンラインでの授業を 実施する際には動画を中心とし た授業を行う。 演習系の授業では、学生が操作に ついてわからないことがあつた場合 すぐに対応できるように、質問などを 連絡できるような環境を整えるよう に工夫する。例えばチャットなど を工夫する。学生には決まった時間 でも質問できるような時間では ないが、質問できるような時間 も工夫する。 また改善プランとは別になるが、 今回のアンケートでは回答者数が少 なく、参考にしづらい点もあつた。 後期に実施する際には回答率を上げ られるように工夫を行う必要がある と感じた。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|----------------------------------|---|---|--|--|--|
| 藤岡 竜太 | 生化学実験 生化学 基礎栄養学実験 | 今回は今までのオンスタイルと異なり、講義の授業は moodle 上でオンデマンドにより実施した。また実験の科目は対面授業になるまで、リアルタイムで実験を行い、レポート作成を課題として課した。講義、実験ともに授業プラットフォームのフェイェルを moodle 上にあげて、復習テストも随時実施する形式をとった。 | 講義、実験ともに学生の受講態度が全体的に平均より低かった。また、実験科目で Q3-7、Q3-8 が平均より低い科目が見受けられた。また、同様の授業を実施している形となったので公平性を保つよう気をつけて授業をする必要があると感じた。 | 講義のオオンラインで授業を行なった科目は小テストなどでも実施されていた。実験科目が不十分だったため、3密を指摘された。また、私語の注意が不十分で、実験と無関係に携帯を使用している学生もいるので注意をしっかりと、授業の指摘もあった。 | コロナの影響もあり、今まで対面で実施していたことがオンラインで実施したこと、授業の準備不足および対応が遅れたこと、3密を回避する必要がある。それに伴って、課題などをオンラインで提出する形式となり確認不足および学生への連絡不足により、対応が難しくなった。 | 現在と同様の対面授業で実施する際は、特に実験ではコロナ対策として学生の人数を半分にしたり交代制にするなどの3密回避を徹底し、実験内容も生体試料などを避けて実施するように気をつける。また授業中の携帯の使用を必要ない場合のみにし、私語の注意の回数もできるだけ増やして、真面目に勉強している学生の妨げにならないよう工夫することを徹底する。オンラインの授業の際には授業のスライドに説明の音声も入れてできるだけ学生が理解しやすい内容にしていくことも心掛けた。 |
| 浜野 香奈 | 進路指導Ⅱ 栄養教育論 給食計画論 給食実務論 | 前期は座学が3科目、演習1科目でありオンライン授業中心であった。授業計画に沿って、資料をパワーポイントで作成し資料1枚ごとに説明文を加えて、PDF資料に変換して配信した。オンデマンドの形式とし、ゆっくりと時間をかけて見ることが出来る、繰り返し確認ができるよう配慮した。配信時はGメールを送り、授業を受けるように促した。課題の集約に時間がかかったことが反省点の一つである。 | オンラインでは学生の反応がわかりにくかったが、Q4、Q6の項目で概ねよい評価が得られていた。しかし2学生の授業評価は非常に低く、積極的に取り組んだ学生の意見があることが懸念される。 | パワーポイントの内容や説明文が分かりやすかったと評価してもらったことが出来た。評価が、「伝えたことが多すぎるのでは・・・もう少し簡潔に」という意見があり、これまでも面授業においての反省点であったため、本日に必要に応じて改めて感じた。 | オンライン授業では、学生自身が取り組む姿勢や興味や関心を持っている。授業内容に興味や関心を持たせる工夫が必要であると考えられている。ある程度理解できている学生は、このようない学生が修学できるが、オンラインでは把握が難しいと感じた。課題の内容などで確認を行っていた。 | 課題の出題方法を検討し予習・復習ができる内容を考えていきたい。今回は可及的に moodle を活用した授業を行うことが求められ戸惑いつつも何とか授業を継続させてきた。行ってみるとオンライン上のメリットなどの新たな発見があった。これからの時代に即した授業ができるよう、IT機器の活用について学ぶ必要性を実感した。 |
| 伊藤 京子 | 基礎調理 調理実習Ⅱ | 確実に調理技術を習得してもらうため、余裕を持って実習できる内容となるように計画をした。またオンライン授業期間中は映像や画像を使って課題を作成するとともに、調理に対する意欲が継続するよう励ましのコメントを返した。 | 学生への指導が初めてであったこと、数回はオンラインで調理実習の課題を出したことから不安であったが概ね良好であった。対面授業では教材の工夫や班ごとに調理指導をするよう努めたことが良かった。 | ポイントを押さえての説明や、調理意欲を高める明らかな授業の雰囲気作りが高評価を受けているようだ。また幅広いジャンルの調理も好評である。しかし調理経験値からくる個人の技術力の差を解消できておらず、全員の力の底上げが必要である。 | 調理を伴うオンライン課題は、個人の調理環境に大きく影響されることから取組意欲に差がでたと考えられる。対面になつてからは品数を絞って、一つ一つの作業を確実に学ばせることで学生の満足度につなげることがわかった。 | オンライン授業対応の際は、家庭での調理環境に左右されない課題を工夫する必要がある。対面授業では、今は蜜を避けるため範囲台に集まっているが、可能な状況になればデモを見せながら進んでいき理解させたい。また、班ごとのチームワークも意欲向上に繋がっていることから事後の班活動の振り返りも検討していく必要がある。課題や実習ノートへの個人あてのコメントは継続していきたい。 |

【食物栄養科 後期】

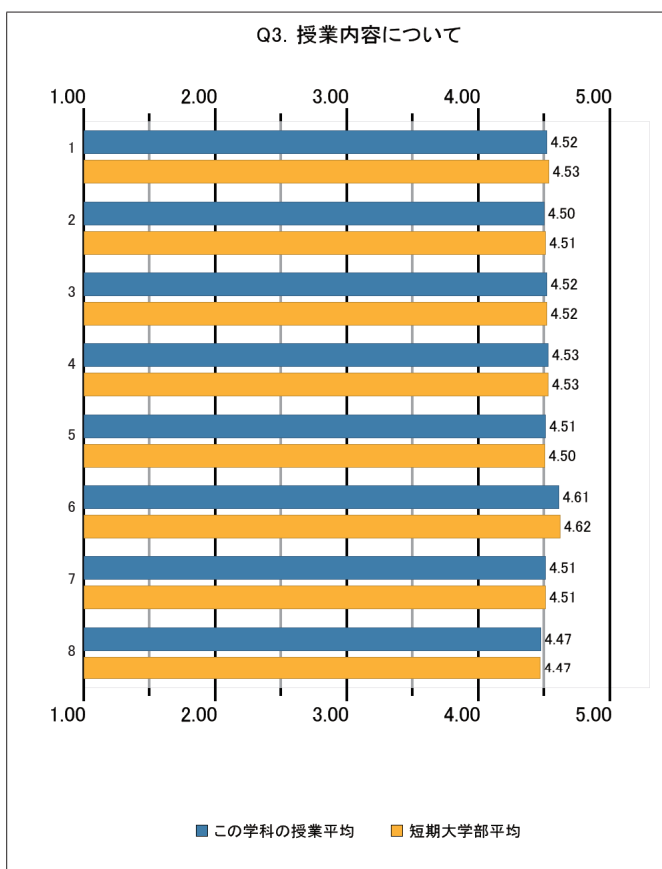
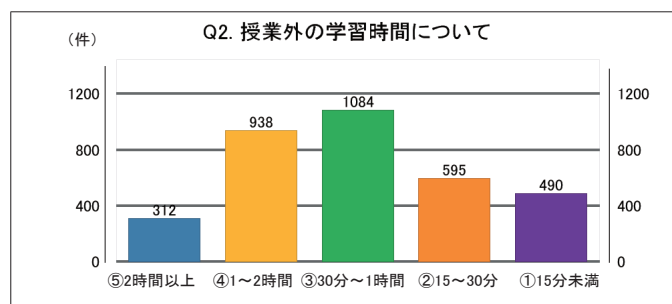
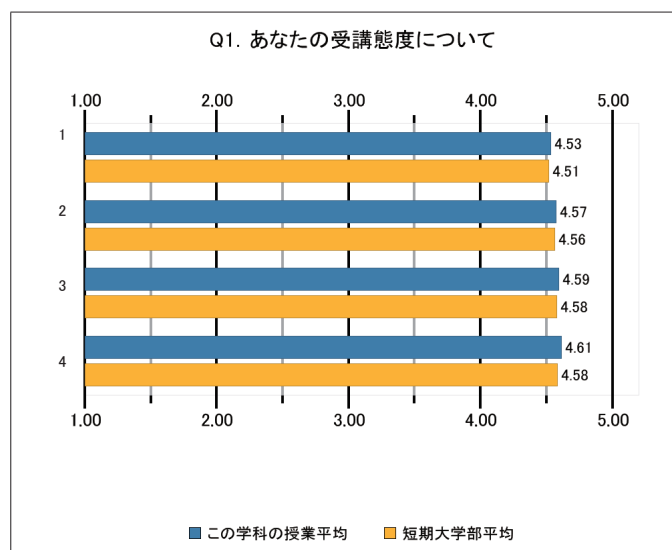
| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|---------------------------------------|--|---|---|--|--|
| 海陸 留美 | 臨床介護栄養実習 給食経営管理実習 I | 1年生の実習では、前期の講義がほとんどオオンライン授業だったため、基礎的な学習内容を理解できている学生が多いと推察し、授業内容も前期に修得すべき学習内容も盛り込み、理解度等の様子を見ながら授業を行った。実習はグループワークが多いため、授業で使用する資料はmoodle上で共有できるように工夫した。 | 評価の得点は概ね良好であった。クラスによって差はあるが、Q1の質問項目に対する評価も平均値より高く、学生が積極的に授業に取り組んだことが伺えた。 授業外の学習時間は30分～1時間と回答する学生が最も多く3割～4割、次に1～2時間が3割前後であった。おおよそ6割以上の学生が30分以上の学習を行っていることがわかった。 | 自由記述では、教えるときの真剣な姿勢、説明のわかりやすさ、実践的な学修内容、きちんと注意するところ、感染症対策等が評価されていた。 しかし、1年生の給食実習では感染症対策を特に注意したつもりであったが、給食の味見や学生への声かけ等でマスクを外す機会があり、1件指摘された。 | 特に1年生の授業では、前期のオンライン授業で理解が不足している内容を補い復習できるように工夫した事が良かったように思う。教えるときは、毎年高説明のわかりやすさは、今後も継続していきたい。 実習中の感染症対策および衛生管理については、細心の注意を払ったつもりである。しかし、教員の味見や試食等でやむを得ずマスクを外さないといい機会度は度々あるもので、学生に事前に説明しておく必要があると思われた。 | 授業評価には書かれていなかったが、実習におけるグループワークにおいて不満を訴える学生だけが学修内容に取組み課題を提出し、他の学生が協力しないという不満の声が多くおける学生一人一人の役割分担を明確にし、特定の学生に作業が集中しないよう工夫が必要であると思われた。 実習中の感染症対策については、これまで以上に強化し、教員が試食する際にはフェイスシールドを着用し、マスクによって声が通らないときはマイクを使用する等の工夫を行って行きたい。 |
| 真部 健一 | 英語コミュニケーションII 就職実践演習 (中学校) | ほとんどの授業を対面で実施できたこととありがたかった。前期の大半が遠隔授業であったため、学生との信頼関係やコミュニケーションがとれるだけ多くコミュニケーションの機会を設け、わかりやすい授業を目標に実施した。 | 概ね良好の結果であったが、英語についてはクラスによって差が出ていた。「どちらともいえない」の評価数が少し増えるだけで評価が大きく影響を受けやすいように思われる。 | 「わかりやすかった」、「楽しい」、「基礎が学べた」など、好ましい評価であった。また、学科に関する効果があった。 | 同じように授業を行っても、クラスの学生の性格、能力、学習歴等により評価にある程度差が出るものと思われる。 「わかる授業」については、わかりやすい説明、実践的な練習、暗証などを取り入れることによりある程度の効果が得られたと思われる。 | 英語を苦手とする学生が多い状況の中で、これまで通り「楽しく、わかりやすい授業」を行い、ひとりで充実感を感じることができるよう工夫して行きたい。 また、これまでも授業の最初に英語によるコミュニケーション活動を行うよう努めてきたが、今後も更に続けていきたい。 |
| 岡本 昭 | 公衆栄養学総論 運動生理学 健康管理総論 食の安全と鑑別 | 今期は対面、オンライン、少人数での対面授業といた。対面形式で授業を行った。対面ではスライドと小テストの活用を丁寧に行い、オンラインでは質問を受け付け、その質問をオンライン上でスライドにして回答した。少人数授業では、授業内容に応じた問題を解きながら解答に説明を加え、自能検査等はアクティブラーニングの形式もとり入れられた。 | これまでより評価の点数が高い印象があり、素直にうれしく思っている。これまでは学生がネガティブな点数をつけ、改善点では意見のない評価がみられたが、今回はそのような評価がなかった。 | 「世の中の状況や成り立ち」について、「どうしてそのような答えになるのか」学ぶことができた。また、「考えるきっかけができた」など、知識の先にある理解することによって評価が高かった。スライドを使いながらオンライン授業で声を録音して説明したこともよい評価につながった。 | オンライン授業では、資料配布と丁寧な説明、積極的な質問の受付とそれを授業中に解答、説明することを心がけた。 対面授業では小テストを中心とした復習の時間を導入してとることを継続していきたい。 学力の幅が広いので、興味の湧かない学生に対して積極的に声をかけていく事が必要であり、加えて、学力のある学生に対して、最新の知識を教授できるような心がけたい。 | |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|--|--|--|--|---|---|
| 工藤 孝一 | 生徒指導論 教職概論 英語コミュニケーションⅡ | 前期の授業での学生の受け止めがわりとよかったので、授業プリントやワークシート、パワーポイント資料の改善や、moodleの対面授業での活用を一段進めた。また、moodleを使っての毎時間の小テストの実施や、出欠確認なども行った。一部インテグレーションだったので、教材を再構築して添付した。 | 授業内容については、対面のインテグレーションの授業、一部オンラインの授業とともに、概ね良好な評価だった。学生自身に対する自己評価で、受講態度にはあまり問題がないようであるが、授業外の学習時間にインテグレーションを除いては、やや少ない傾向がある。 | 授業プリントやワークシートに加えて、パワーポイント資料等の記述が多く見られた。moodleでの小テストも、振り返りができよよいなど好評だった。半分程度はオンラインで実施した授業では、対面授業での分量が多めになったためか、書く量が多くて大変だったとの記述も見られた。 | 授業プリントやワークシートなどの改善や、moodleを使った小テストの実施などが効果的であったと思われる。一方、対面での授業が半分程度になつた授業では、事例研究などでの対面時の分量・負担が多くなつたため、授業にゆとりがなくなつた感がある。moodleを使った意見集約も予定したが、252教室のWi-Fi環境に阻まれた。 | 効果的で評価もわりと高かったので、授業プリントやワークシート、パワーポイント資料の改善や、moodleの対面授業での活用を一段進めた。また、学生が質問したり、意見を述べやすくするために、授業内容を精選して、質問や意見を言う時間を工夫するなど、よりインタラクティブな授業づくりを進める。 |
| 衛藤 大青 | 食品加工学実習 フードコーディネーター フードマナー ケータリング | 授業で扱うスライドの図表の整理を行い、より見やすく理解しやすいものを作成した。それに伴い、補足プリントに関して同様の作業を行った。オンライン授業については、前期と同様に動画の配信を中心として組み立てたが、動画を作成する際にマイク調整などを繰り返し行うに苦労した。 | 全体的に良い評価を貰っていたように感じるが、特にQ3-3やQ3-4の項目で、他の項目と比較して高い評価を貰っていた。またオンラインで実施した科目でもQ3-4の項目で高評価を貰っていた。 | 自由記述では、「この授業で良いと思う点」「プリントがわかりやすい」「小テストが役に立った」という意見を貰っていた。「この授業の改善点」としてオンラインで実施した授業で「1度複数授業が出た時(複数回分を一度にアップした時)に少し困りました」という意見が見られた。 | Q3-3やQ3-4の項目で高い評価を貰っていたことは、前期の授業の改善点としてあげたスライドやプリントの図表の整理の結果が出たと考えられる。また、オンライン授業でのQ3-4の項目での高評価も音響の調整などを改善した結果がよい方向に出たと考えられる。 | 今後については引き続きスライドやプリントなどの視聴覚資料の改善に取り組む。スライドには動きをつけるなど、見ている側が飽きないように工夫を凝らしていきたい。また、moodleの機能についても利用できるように勉強をつけ、「レッスン」機能や「フォーラム」機能などを利用することで、双方向での授業を楽しみながら行えるような環境を整備していきたい。 |
| 藤岡 竜太 | 解剖生理学 基礎栄養学 解剖生理学実習 進路指導Ⅰ | 担当する科目は対面授業が中心だったので、授業進度を気をつけるよう心掛けた。また、今までは毎回の復習テストを次の授業の最初に実施していたが、今回は毎回の授業の最後に実施する形式に変更した。また、実験科目については新型コロナウイルスを考慮して、生体試料を使用する実験を避け、動画を見せるなどして工夫した。 | Q3-6の「教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられまししたか」の設問は比較的高い結果となつた反面Q3-1の「新型コロナウイルス対策に沿った授業概要への変更および到達目標について説明されたか」Q3-7の「授業の達成目標は到達できましたか」の設問は低い結果となつた。新型コロナウイルスへの対応した達成目標の変更と学生への説明が不十分であることが分かった。 | 実験科目について密になることと不安があるとの記述があった。講義科目については字が小さい文字を写すことができないう点の記述がみられた。良かった点は復習テストの実施がよいとの記述が見られ、工夫したことで一定の効果が確認できた。 | 新型コロナ対策した授業と同等の形で実施してしまつた部分があった。また、対面授業の活用が疎かにもありmoodleの活用が疎かにもなつた。授業内容でいえば丁寧な説明しように心掛けたが時間配分を意識した授業ができず、結果的に説明がはやくなく理解しにくく難しい授業となつてしまつた点があげられる。 | 次年度も新型コロナの影響が予想されるため、実験科目は感染リスクを減らすために変更し、密とならないように工夫していきたい。講義科目についてはmoodleを活用して授業理解の向上を図るとともに、授業の時間配分を意識して、できるだけ学生の進度にあつたスピードで実施していくよう心掛けた。授業内容についても栄養士のコアカリキュラムに沿つた内容をしっかり踏まえ内容の改善を行っていく。実験科目の受講態度が平均的に低い点数なので授業内でレポート作成などを徹底し課題の提出をしつくり指導するよう改善していきたい。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|--|--|--|---|---|---|
| 浜野 香奈 | 調理学 栄養カウンセリング 実習 臨床栄養学総論 | 前期の問題点としてあげた、遠隔授業における課題の 出題方法や集約について検討 した。他の授業時間を活用し、 紙媒体の予習プリントや課題 を事前配布し授業を行った。 また授業で配信する資料の漢 字にはふりがなをつける、専 門用語には平易な言葉での注 釈をつけるようにした。 | 1 年生、2 年生とともに同じ授 業内容に対して、クラスごと に評価の差がみられた。学生 の理解度の把握が十分でない ことが要因として考えられ る。質問ができてくる体制 の構築が必要と感じた。 | 学生からはおおむね「わかり やすかった」、「解説があっ た」などの意見が伝わり、 授業では学生の反応や理解 度の把握が難しく感じ、自 身の評価の参考になった。 | ・ 遠隔授業を行うにあたり ICT を活用する知識や技術 不足。 ・ 授業が詰め込みすぎで あり、内容にまとまりがない。 ・ 学生の理解状況についての 把握が十分でない。 | ・ moodle や Zoom を活用し た授業に対応できる知識や 技術を修得する。 ・ 重要なポイントを絞るこ み、それを的確に伝える。 ・ 取り組み姿勢が十分でな い学生に対する指導の充実。 ・ 遠隔授業での学生の主体 的な学びについて考える。 ・ 遠隔授業でのアクティビ ティの方法について考える。 ・ 時代に即した栄養士の業 務内容や学生の就職先を把 握し、実際の職場で活かせる 知識や能力が修得できる 授業内容を考える。 |
| 伊藤 京子 | 調理実習 I 調理実習 III 学校栄養指導論 就職実践演習 (栄養教諭) | 実習において、重要ポイント は短時間でなるべく蜜にな らないようにしながらデモを 見せた。また、班での学び の機会を重視した。教職の 科目においては、実践的 な学習の場を確保し、学生 の理解促進を図った。集 約した形の振り返りができ るよう授業を構成した。 | 評価の得点は概ね良好であ った。調理実習のほとんどが 対面で実施できたことも要 因の一つだ。個人個人 の技術力に応じた指導が 十分に行われていた。今 後は、教職科目については 、今後指導方法の工夫が 必要である。 | 全員が積極的に実習に携わ れるよう声掛けしながら授 業を進めようとした。高評 価を受けたこと、学生の満 足度、学生の理解状況につ いて把握が十分でない。 | 教員と学生、学生同士の コミュニケーションを大事 にして、自分自身で運動の 計画を立てたり、各自それ ぞれの準備を済ませておく たり、各自の準備が十分 でない場合は、今後の実 生活でも生かせる事から、 ある程度の満足が得られ たと思えます。 | 実習のオンラインは、基礎を 定着させる等オンライン絞 り取りができていくように 工夫していきたい。 対面では、一人一人の 実態把握に努めるとも に、班での役割分担を記 録させていく方法を取り 入れる。全員が達成感を得 られる授業にしたい。 実習ノートでの振り返り と反省は引き続き実施し 、頑張りを認めていき たい。 教職の授業においては、 オンラインは学生が主体的 に意欲を持って取り組め るよう工夫したい。対面 の場合は板書を工夫し、 1 時間の流れがわかるよ うにしたい。 |
| 阿部 淳 | 体育実技 I スポーツと健康 | スポーツと健康は今回が初 めての授業であったので改 善点ではありませんが、こ の授業を実施するにあたり は、自分自身で運動の計 画を立てたり、各自それ ぞれの準備を済ませておく たり、各自の準備が十分 でない場合は、今後の実 生活でも生かせる事から、 ある程度の満足が得られ たと思えます。 | 評価の得点は概ね良好であ った。課題や宿題に取り 組んだ時間が思ったより 少なかった。オンライン の授業の課題よりも、も っと多くの課題が出た授 業があったため、受け止め たい。 | 概ね満足してくれている と思えます。後半の実技の 部分で、運動の仕組 みとリンクがわかりやす いと感じました。 学生達に種目を決めさせ てもらうため、前半にや った授業の内容が多かった ため、受け止めたい。 | 簡単な運動の組み合わせ で、運動メニューが作れる こと、自分自身で運動の 計画を立てたり、各自それ ぞれの準備を済ませておく たり、各自の準備が十分 でない場合は、今後の実 生活でも生かせる事から、 ある程度の満足が得られ たと思えます。 | メインで考えていたトレ ニングメニューの作成 では、学生がそれぞれ の工夫して、画像などを 貼り付けて、簡単な形 でも提出されるものも あり、もう少し提出方法 に条件を付けることで、 取り組み方が変わる のではと感じました。 後半に学生達に決めて もらうことを、自分たち で企画できるように心が けたい。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|---------------|--|--|---|---|--|
| 是永 逸郎 | 数理・データサイエンス入門 | <p>数理・データサイエンスの授業は、初めての開講であった。パソコンを使うが、受講生含んだ授業であるが、受講生のパソコン環境に左右されないういよう、パソコンにインストールしないういよう、使用できるオンラインツールを選んで使用した。</p> <p>200名近い受講生が一斉にアクセスしても問題なく動作するか不安であったため、グループを分けて順番にアクセスしてもらおうなどの工夫を行った。</p> | <p>全ての設問において、全体平均より下であり、改善しなければならないと感じた。特に問題と思われのは、Q1-1～3の受講態度に関する設問の評価が低い点である。この授業に対して、受講生の興味・関心・意欲が低いというところが推測される。</p> | <p>「わかりやすい」、「丁寧に教えてくれる」、「質問を返してくれる」など肯定的な記述がある一方、「難しい」、「わかりにくかった」、「分からないところを聞きにくかった」との記述もある。受講生がオンライン授業で、受講生が多いういようこと、個別のきめ細かな対応は難しい面がある。</p> | <p>数理・データ分析や人工知能などについて、十分に興味をもつてもらうことができなかった。</p> <p>実習においては、パソコンに慣れている層と慣れていない層とで、授業内容についての受け止め方が異なったのではないかと考える。</p> | <p>この授業の大きな目的の一つは、数理・データサイエンスについて、興味を持ってもらうことである。数理・データサイエンスで扱う、データ分析や人工知能などについて興味をもつてもらえるよう、身近な例を使って、有用性やおもしろさを知ってもらうことができるような内容にする。興味が無ければ、難しい内容を理解しようとも思わないであらう。</p> <p>実習で扱うデータについても、自分たちと関係のあるデータを使う等、工夫することで、興味を持ってもらうようにする。</p> |

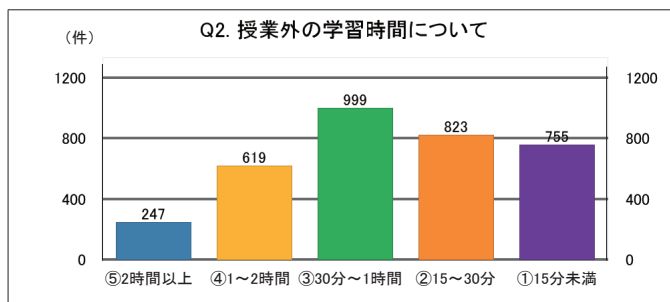
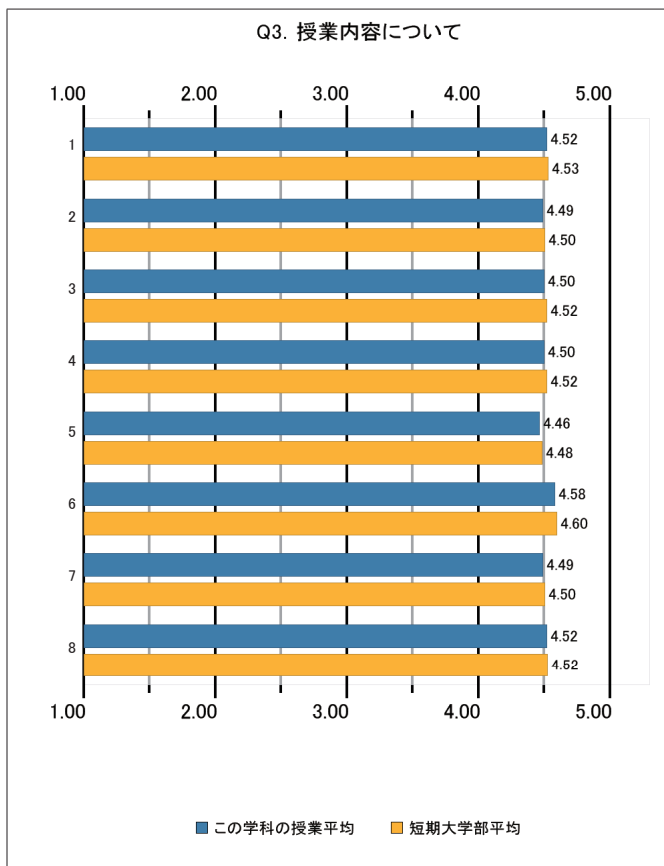
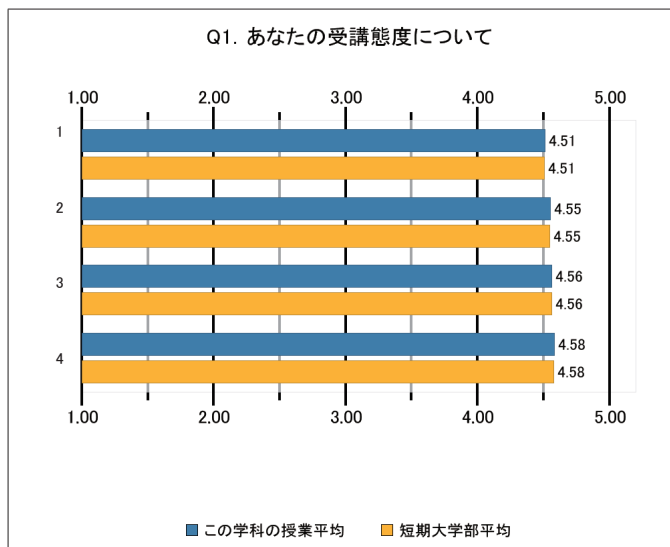
学科別集計 初等教育科



上段: 回答者数 / 下段: 割合

| | 設問 | 5. そう思う | 4. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない | 2. どちらかといえばそう思わない | 1. そう思わない | あなたの講義 | 全体平均 |
|--------|---|---------------------|----------------------|-------------------------|-----------------------|----------------------|--------|------|
| [Q1] 1 | あなたはこの授業を休んだり、課題の提出が遅れたりしないで受講しましたか。 | 2298 67.1% | 788 23.0% | 226 6.6% | 75 2.2% | 32 0.9% | 4.53 | 4.51 |
| [Q1] 2 | あなたはこの授業の間、他のことに気をとられず集中して取り組みましたか。 | 2248 65.6% | 906 26.4% | 220 6.4% | 38 1.1% | 6 0.2% | 4.57 | 4.56 |
| [Q1] 3 | あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。 | 2325 67.9% | 847 24.7% | 201 5.9% | 38 1.1% | 8 0.2% | 4.59 | 4.58 |
| [Q1] 4 | この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。 | 2393 69.8% | 772 22.5% | 202 5.9% | 43 1.3% | 9 0.3% | 4.61 | 4.58 |
| [Q2] 1 | この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。 | (2時間以上) 312 9.1% | (1~2時間) 938 27.4% | (30分~1時間) 1084 31.6% | (15~30分) 595 17.4% | (15分未満) 490 14.3% | 3.00 | 3.04 |
| [Q3] 1 | 新型コロナ対策に沿った授業概要への変更および到達目標について説明されていましたか。 | 2155 62.9% | 954 27.8% | 250 7.3% | 47 1.4% | 9 0.3% | 4.52 | 4.53 |
| [Q3] 2 | 学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。 | 2140 62.5% | 926 27.0% | 293 8.6% | 49 1.4% | 9 0.3% | 4.50 | 4.51 |
| [Q3] 3 | 教材(テキスト・配布資料)、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。 | 2205 64.4% | 874 25.5% | 257 7.5% | 63 1.8% | 14 0.4% | 4.52 | 4.52 |
| [Q3] 4 | 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。 | 2252 65.7% | 818 23.9% | 271 7.9% | 56 1.6% | 15 0.4% | 4.53 | 4.53 |
| [Q3] 5 | 学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。 | 2183 63.7% | 867 25.3% | 293 8.6% | 58 1.7% | 15 0.4% | 4.51 | 4.50 |
| [Q3] 6 | 教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。 | 2391 69.8% | 777 22.7% | 210 6.1% | 28 0.8% | 9 0.3% | 4.61 | 4.62 |
| [Q3] 7 | 授業の達成目標は到達できましたか。 | 2118 61.8% | 972 28.4% | 284 8.3% | 32 0.9% | 7 0.2% | 4.51 | 4.51 |
| [Q3] 8 | コロナ対策の下での授業として、この授業は満足できるものでしたか。 | 2151 62.8% | 860 25.1% | 300 8.8% | 69 2.0% | 39 1.1% | 4.47 | 4.47 |

学科別集計 初等教育科



上段: 回答者数 / 下段: 割合

| 設問 | 5. そう思う | 4. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない | 2. どちらかといえばそう思わない | 1. そう思わない | あなたの講義 | 全体平均 |
|--------|---------------------|----------------------|------------------------|-----------------------|----------------------|--------|------|
| [Q1] 1 | 2216 64.3% | 914 26.5% | 209 6.1% | 69 2.0% | 34 1.0% | 4.51 | 4.51 |
| [Q1] 2 | 2224 64.5% | 947 27.5% | 218 6.3% | 30 0.9% | 22 0.6% | 4.55 | 4.55 |
| [Q1] 3 | 2251 65.3% | 940 27.3% | 195 5.7% | 27 0.8% | 25 0.7% | 4.56 | 4.56 |
| [Q1] 4 | 2306 66.9% | 906 26.3% | 174 5.0% | 29 0.8% | 28 0.8% | 4.58 | 4.58 |
| [Q2] 1 | (2時間以上) 247 7.2% | (1~2時間) 619 17.9% | (30分~1時間) 999 29.0% | (15~30分) 823 23.9% | (15分未満) 756 21.9% | 2.65 | 2.67 |
| [Q3] 1 | 2150 62.3% | 1000 29.0% | 227 6.6% | 43 1.2% | 21 0.6% | 4.52 | 4.53 |
| [Q3] 2 | 2113 61.3% | 991 28.7% | 249 7.2% | 58 1.7% | 24 0.7% | 4.49 | 4.50 |
| [Q3] 3 | 2159 62.6% | 951 27.6% | 243 7.0% | 63 1.8% | 21 0.6% | 4.50 | 4.52 |
| [Q3] 4 | 2151 62.4% | 952 27.6% | 253 7.3% | 58 1.7% | 20 0.6% | 4.50 | 4.52 |
| [Q3] 5 | 2082 60.4% | 975 28.3% | 297 8.6% | 54 1.6% | 28 0.8% | 4.46 | 4.48 |
| [Q3] 6 | 2294 66.5% | 907 26.3% | 193 5.6% | 25 0.7% | 18 0.5% | 4.58 | 4.60 |
| [Q3] 7 | 2074 60.1% | 1042 30.2% | 261 7.6% | 36 1.0% | 24 0.7% | 4.49 | 4.50 |
| [Q3] 8 | 2177 63.1% | 969 28.1% | 223 6.5% | 44 1.3% | 30 0.9% | 4.52 | 4.52 |

初等教育科

授業評価に関する学科長見解（学科長 藤田光子）

（令和2年度前期）

令和2年度前期の学科全体傾向は4.50～4.61と高得点を示しており学生の自己評価・授業評価いずれの設問に対しても、学生の授業に対する満足度は高い。また今年度前期は遠隔授業の時期があったにもかかわらず、Q1-3、Q1-4においても高得点となり、学生の授業に対する取り組み状況はよく、学びたいという意志と積極的に取り組んだという自負がうかがえる。

Q2-1の時間外学習については例年課題であった。今年は30分以上1時間以上の学生が最も多くなり、時間外学習の時間が増加している。これは遠隔授業において課題の提出などを含めて時間外学習時間が増加した傾向の表れであると推察される。しかし依然として15分未満の学生も多く、学生間や科目間で差があると思われる。moodleの活用などによる課題の量や様式も変化したため、今後引き続き工夫や改善が必要になる。

さらにQ3-6教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられたかという項目は4.62と全設問の中で最も高い評価となったことは、教員の努力による授業実施とその姿を見てきた学生の評価であることは素晴らしい。

（令和2年度後期）

令和2年度後期の学科全体傾向は受講態度・授業内容いずれの設問に対しても4.46～4.58と概ね安定した結果である。しかし、受講態度・授業内容において1.そう思わないという回答が前期より若干高く授業に対する態度面で課題が見受けられる。全体としては対面授業が多くなり、一部の遠隔授業やコロナ対策も継続的に安定的に実施されていたため、授業内容についても満足いく内容であったことがうかがえる。

課題であるQ2-1の授業外学習について後期は15分未満が増加している。昨年は15分未満が最も多かったが、今期は授業外の学習に伸びが見られる。遠隔授業による課題学習を経験したことによる変化であると思われる。

授業内容においても多くの対応を必要とする1年であったが、全般としては満足度が高く安定している。変化の多い1年であったからこそ引き続き変化を受け入れつつも授業の工夫や改善の必要性が高まったと感じる。

令和2年度 「私の授業改善プラン」 集約一覧

【初等教育科 前期】

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|-------------------------|--|---|---|--|---|
| 仲嶺まり子 | 表現と鑑賞 保育内容V | オンライン授業と対面授業を3:1の割合で実施した。オンライン授業は、moodle上にPPT資料と課題を提示するスタイルで行った。教材は、写真や絵本を活用し視覚を通して内容理解が深まるよう工夫した。そのため、教材作成に多くの時間を費やした。また、毎時課題シートを用意し、授業内容と課題の繋がりを理解することと自主的学習が進められるようにした。課題分量については、中間時期に調整を行った。 | 平均に満たない項目も見られるが、評価は概ね良好と思われ。Q1のアンケートからは、授業への積極的参加や意欲的に取り組む様子を窺い知ることができ、Q3のアンケートでは、教材への評価は高かったものの、学生の意見が述べられるような配慮が不足していたこととが窺われる。課題シートでの質問コーナーの活用が少なく、メールでの質問が多かったことから、質問方法の改善が必要と考ええる。 | 自由記述では、オンライン授業でもいろいろな表現の仕方が学べたこと、実際に自分でやってみるとこの等が書かれ、絵本や写真を活用した視覚教材の有用性が認められた。また、対面授業において手遊びや動きを伴う活動が中心であったことから、わかりやすかった・実習で活用できき・保育について学べた等、実践的内容についての評価が高かった。 | オンライン授業での視覚教材の活用によるいろいろな表現方法の提示や事例の提示、対面授業では実技を中心とした実践的内容が評価につながったと考えられる。しかし、対面授業において、実技と理論との関連性を深める内容が不足していたと思われることから、そのことも評価の要因と考えられる。 | オンライン授業の教材作成については、オンライン授業であってもしっかり工夫ができて、その工夫が学生の理解や意欲に反映されることが分かった。そのような利点を踏まえ、今後も教材の改善を図りたい。また、オンライン授業及び対面授業において、個々の理解度や考え方の把握を大切にし、双方向的なコミュニケーション方法について改善を図っていきたい。 |
| 工藤 豊文 | 教職概論 法学(日本国憲法) 数学 | ①わかりやすい授業(パワーポイント使用、説明を詳しくする)を心がけた。 ②復習テストを毎時間の課題として与え、内容の定着を図った。 ③授業に関連した内容の新聞記事等を与えて、まとめさせる課題を課した。 | クラスによって異なるが、評価は概ね良好であった。昨年度は、Q2の1「平均勉強時間」が低い(他の講座も低いため、15分未満の学生が10名いたが、今年度は、8名とわずかに減ったようだ。 | 対面授業がほとんどできなかつたので、わかりやすい授業資料の作成に努めた。パワーポイントの工夫、復習テスト、毎回の課題など良い評価を得ることができた。ほとんどの学生はこちらの意図するところが理解できているようだが、と感じた。また、一部の学生から、資料が多すぎて、印刷が費用面を含め大変だったとの感想があった。また、最後の3回の授業では資料をWordからPDFに変更したが、やりづらかったとの感想もあった。 | Q2-1について、復習テストと課題の評価の割合が低いことが原因としてあるように感じている。また、授業資料を印刷して保存しておくように指導したことが原因で、資料が多すぎることなどの自由記述があったようだ。 | ① 復習テストと課題の提出について、評価の割合を高くする。 ② 課題の取組が1時間程度要するものにする。 ③ ゆっくり説明する。対面授業でなければ、わかりやすい資料の作成を心がける。 ④ 授業資料などの保存は学生に任せるとする。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|--------------------------------------|--|--|--|---|--|
| 八幡 雅彦 | 英語コミュニケーションI (外国語) 国際文化 進路指導II | 「教科書をなぞって教えるだけでなく応用問題を取り入れる、言語のみならず異文化知識の教授を目指す文化」を前回の授業改善プランのうちに記述し、それを実践した。例えは教科書で学んだ英作文に基づいて、オンライン画像を導入してそれを英文で表現させるという課題を課し、ギリソ英語の通しを講じてみる異文化知識の教授をおこなった。 | 評価結果に関しては、「コロナ対策の下での授業としてこの授業は満足できるものであったか」の問いに対して、1Aの「英語コミュニケーションI」が4.2年の「進路指導II」、専攻科2年の「教科特講(外国語)」は4ポイントを上回った。平均値を上回ったのは1Bの英語コミュニケーションのみであったが、4ポイントを超えた授業は自分なりに評価している。1Aが4ポイントを超えられたのは残念だった。 | 今回は数多くの学生が自由記述を書いてくれていて非常に参考になった。「進路指導II」に就職に役立つことをしてくれたという好評があった半面、オンラインゆえに面接等してもらえなかったのが残念と感じた。その他の授業に関しては、「先生が元気いっぱい」「言葉がはきり分かった」「楽しく学べた」とたくさん楽しかった。「歌という好評の半面で「試験が簡単なソコソコの使い方がよくて、少し的を射た評だ」と感じた。 | これまでの授業評価では、「日本語が分かりにくい」「テキストの問題に授業中にやるなら家庭学習をした方がよい」という改善があったが、言葉が分かりやすかった、楽しく学べたという好評につながったと思う。「進路指導II」に関しては、以前は4ポイントを超えていたが、オンライントが少なかったが、レポート削を小まめにすることが4ポイントを超えたと感じる。「試験が簡単過ぎた」という評は、初のオンライン授業のため学生に甘くなっただけで要因と思われる。 | ①対面授業の中にオンライン授業を効果的に取り入れる、②教科書+準備をしつかり行うという3点を実践する。以前はオンラインに疎かったが、コロナウィルスによるオンライン授業を通してmoodle、Zoom等の効果的な使用法を学ぶことができたので、今後はさらなる活用を目指す。オンラインによる可能性が広がったので、画像を効果的に用いて有意義な授業を行う。そして有意義な授業を実践するためのしつかりした授業の準備の必要性を今回は実感したので、今後とも心掛ける。 |
| 後藤 善友 | 情報リテラシー 情報機器論 教科特講(理科) | 全てがオンライン授業となつたため、これまで対面形式で実現できていた実験や演習を、できるかぎり自宅で行い、特に新入生対象の授業については、オンラインでの質問対応を、手厚くした。 | 新入生対象の「情報リテラシー」は学生が非常に積極的に参加してくれたおかげで平均的な評価だった。一方で、専攻科の「情報機器論」や「教科特講(理科)」は高度な内容や観察・実験の内容を含んだためオンライン教材としての情報提供が不十分だった。 | 授業の後半ではできただけ授業動画による解説を試みたが、その工夫に対してはまずまずの評価を得ていた。 | 授業動画の提供が遅れたことや、授業進行に伴う学生の理解度、把握が不十分だったこと、学生の要望を授業に反映させる工夫が遅れたことが大きな要因だろう。 | 授業動画を充実させたい。長い動画は視聴しにくいということなので、20分程度の動画に分けるような編集も取り入れていきたい。また、掲示板等を利用した学生との意見交換が気軽にできる工夫により、授業を進捗させながら教師の工夫や進行速度の調整など、学生に合った柔軟な対応をおこなってきたい。 |
| 藤田 光子 | 器楽I 器楽III 指導法特論(音楽) 音楽科指導法 | 今年度は予定していた授業の順番を工夫する必要があるが、実施に向け感染拡大防止対策を万全にすることで実施が可能となった。次科目についてはオリエンテーションで統一した内容説明を行い、対面授業ができないう間の対応として、テキストを郵送するなどし、遠隔授業の準備も行ったうえで、授業開始となった。その他遠隔授業の科目については丁寧にはパワーポイントを作成し、音声を入られる工夫をすることで遠隔でも受講しやすい内容に心掛けた。 | 概ね良好であった。双方向でリアルタイムではない遠隔授業でもできるだけ質問しやすいよう、またメモを開示することによって質問できる体制をとったことが良かったと思う。 | 概ね良好であった。遠隔で実施した授業についても学生の声を聞くことができ、パワーポイントに音声や動画を併用することも含め今後の参考となる内容が多かった。「器楽I」においては授業内容や進度に関する説明や改善を求める声があった。 | 全般的には良好であった。パワーポイントの工夫などで概ね順調に授業が進んだと思われ。実技科目については遠隔授業ではできないためできる限りの感染拡大防止対策をしながら実施となつたが、好意的に感じる学生が多い中苦手と感じる学生には当初教員とあつてマンツーマンでのレッスンをが得意な時期があつたことには不安に感じたのかもしれない。 | 1つずつ丁寧に進めていくことや疑問に答えていくことは、対面でも遠隔でも必要であると感じている。しかし遠隔の場合資料の提示を毎回丁寧にすることや、テキストの重要性は特に増したと思う。音声での説明は遠隔には効果的であつたため継続する。振り返りを多くしたことで、時間外学習が増え学生への負担が多くならず、授業内で解消できるような課題の提示方法の検討も必要と感じている。「器楽」など複数担当の授業については全担当者で結果を共有し、改善できる点の確認とそれらを学生にフィードバックすることを確認し、そのことが今後の授業の改善につながると思われる。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|---|---|---|--|---|---|
| 伊藤 昭博 | 保育内容V 図画工作 保育内容V | 図画工作の授業では、様々な表現技法の解説をムードル上で、課題の制作に必要な材料は、美術教室に準備し、ムードル上で指示を行った。課題提出は、作品の写真を子どもたちの表現活動に生かす方法について moodle 上にアップしてもらった。 | 図画工作の評価は、どの項目も平均値とほぼ同じ値であった。保育内容Vは、3クラスの評価で平均値を上回るクラスと下回るクラスがあった。平均値を上回った1クラスは、全ての項目で4.59～4.79であった。一方、平均値を下回ったクラスは、4.33～4.50であった。 | 図画工作、保育内容Vとも良いと思う点では、身近な材料でいろいろな作品が制作でき、よかった。保育の現場でも役に立つものを学ぶことができ、moodle 上の説明も解り易く工夫して制作することができた。この記述であったが、改善点では、材料の準備が難しかった。提出課題のフィードバックがほぼなかった。この授業の性質上、遠隔では無理があるように思う。 | 良いと思う点では、身近な材料で保育の現場でも活用できる制作方法を写真と図解で説明できたことが要因かと思われる。改善点では、moodle 上の質問やフィードバックの欄を設けているが、moodle 上でフォローアップすることが必要かと思われる。また、材料の準備ができていないが、教室に準備はしているが、moodle 上の指示がうまく機能しなかったことと関係かと思われる。 | 今後も遠隔での授業が予想されるので、解り易い解説の工夫改善を行い、質問とフィードバックの欄を設けることで提出課題の充実を図りたいと考えている。また、制作に必要な材料についても各自で準備できるものと大学側で準備するものをムードル上で詳しく指示し、学生自身も積極的に課題に取り組めるような工夫改善を行っていききたい。また、対面授業に備えて作品制作に必要な材料の性質やハサミやカッターなどの道具類の使用方法についても解説できるように準備を行っていききたい。 |
| 河野 伸弘 | 法学 教職概論 化学 | 4月下旬からのオンライン授業に向けて、学生がインターネット等で自分で調べられるように、パワーポイントで授業プリントを作成した。更に、定期的に復習テストを配信して重要事項の理解・定着の工夫をした。 6月下旬からの対面授業では、学生の苦手分野（化学：モル濃度・色管理・生徒指導・キャリア教育）を重点的に指導した。 | 授業内容の評価項目 法学…4.39 教職概論…4.53 化学…4.35 全体平均…4.42 Q2-1の平均勉強時間の評価は悪い。 法学…2.94 教職概論…3.10 化学…3.75 全体平均…3.04 | オンライン授業：「授業プリントが分かりやすい。確認テストで復習ができた。」 対面授業：丁寧な板書と分かちやすい説明は高評価であった。 | シラバスを変更して15回(オンライン授業10回、対面授業5回)を実施した。インポートで調べ等自学学習を取り入れ、定期的に復習テストを配信して重要事項の理解・定着の工夫をした。 6月下旬からの対面授業では、学生の苦手分野を重点的に指導した。化学：モル濃度・色管理・生徒指導（児童虐待・いじめ・不登校）・キャリア教育 | 対面授業ができていない場合でも、オンライン授業で補えることが分かった。ただし、具体例の提示等に限界があることも分かった。学生がどれだけ集中して授業に取り組んだかは、課題提示の方法・量等を含め今後改善していききたい。 |
| 高橋 俊二 | 生活科指導法 教育課程特論 社会科指導法 道徳教育指導法 総合的な学習の時間及び特別活動指導法 | オンライン授業では、教科等については、模擬授業等が難しく、学習指導要領を中心に課題を出した。その日の授業日の時間朝の前にGメールで課題を出し、その日の内に、課題を提出するよう指導した。受け取りの返信や質問等にもGメールでスムーズにできた。 | 評価は、概ね良好であった。道徳指導法等でQ3-3の「教材、教具の利用は適切でわかりやすい授業」の評価が高かった。反面、オンライン授業で、課題を低くするため、Q2-1の評価が低かった。 | 自由記述欄では、「学習指導要領を深く学ぶことができた」「課題は、その日の内に提出だったので忘れずに提出できた」等の記述があった。これは、Gメールで学習指導要領の課題を送ったからである。しかし、「学習指導要領は学べたが、授業の進め方や指導法ももっと学びたい」との記述もあり、オンライン授業の内容や工夫が足りなかった。 | オンライン授業で、学習指導要領は、深く学べたが、指導案作成や模擬授業等については、対面授業の必要性を痛感した。コロナ禍においても、状況を見ながら、オンライン授業と対面授業を組み合わせていく必要がある。 | 対面授業の教科等の指導法では、指導案作成や模擬授業を多く取り入れる。講義が中心になりがちな授業場を多く取り入れる工夫をする。オンライン授業については、今回の反省を生かし、授業の進め方や指導案の書き方も取り入れ、改善を図っていく。 |
| 落合 弘 | 教職概論 教育方法論 | ICT 機器の活用（特に動画教材）を一層進める。 ②1時間定結型授業の展開と、これに連動するワークシートを使って学習を進める。 ③時事問題や初等教育に関する実践的課題を教材化し、毎時間取り入れる。 | ① ICT（特に動画教材）の使用は学生に好評であった。 ②1時間定結型の教材構成は有効であり、ワークシートの活用も学習に取り組みやすいとの声があった。 ③時事問題については、特に反響がなかったが、学生にとっては当り前のことで、継続したい。 | 概ね好評の記述が多いので、今回の方法を継続する。オンデマンドでは、「ダウンロードで手間取る」や「印刷に費用がかかる」などの記述が複数あり、できるだけバーバレスで実施できるように工夫する。 | ICTの活用(動画教材)の活用、時事問題の教材化は学生の学習にとつて有効である。さらに進化した教材の作成をすすめ、オンデマンドでも対面でも柔軟に対応できるようにする。 | ① ICT 機器の活用（特に動画教材）を一層進める。 ②1時間定結型授業の展開と、これに連動するワークシートを使って学習を進める。 ③時事問題や初等教育に関する実践的課題を教材化し、毎時間取り入れる。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|--------------------|---|--|---|---|---|---|
| 栗石 弘文 伊藤佳代子 | 特別支援教育論 教育原論 特別支援教育総論 社会福祉 子育て支援 社会的養護 I | 今回はオンライン授業中心になったため、グループワークや学生同士でのブレゼン発表の実施が難しかった。しかし、moodle上で事前の準備から複数名での発表資料の作成等とができるように適宜必要な課題を課し、一人一人にコメントを返すようにした。また、学生作成の資料について、moodle上で共有できるように工夫した。 | オンライン授業中心であったが評価の得点は概ね良好であった。Q2-5「学生が質問や意見を述べられるような配慮」については、毎回質問を受けたことに対して「質問への対応コーナー」を設けてPPT上で対応し、双方向のコミュニケーションを図るよう努めたことと効果的だったと思われる。 | 自由記述欄では、説明の詳しさや対応の丁寧さにおいて高評価を受けていた。対面授業時と比較してPPTはスライド数を増やして文字による説明を具体的に加味した。準備には時間的に余裕は必要であったことと確認できた。ただ、配信の時間が遅れたことがあったことは反省すべき課題である。 | オンライン授業でも双方向のやり取りができるように工夫することや、学生の満足度に迫れることが分かった。ただし、模擬授業やグループワーク等をすすめるためには、対面授業との組み合わせを考慮する必要がある。さらに、オンデマンドでは、文字による伝達がある様々なエピソードを伝えることにも限界性も実感している。 | 対面授業ができない場合でも、オンライン授業の資料提示方法や学生で対面授業を補える対面授業よりもある程度、言葉でいえるようなエピソードを加味することができたり、学生がどれだけ集中して授業に取り組んだかは、課題のフィードバックだけでは判断できない。課題が多くなりすぎない課題提示の方法等を含め今後改善していきたい。 |
| 吉村 壮明 | 教科特講（図画工作） 図画工作科指導法 保育内容 V 図画工作 | 前期はオンライン授業中心となつたため、遠隔授業としてのデータ作成に加え、遠隔用アプリケーションの扱い方を学んだ。Zoom と moodle が中心だったが、遠隔でも、なるべくわかりやすい課題内容の表記を心掛けた。 | 概ね、結果からは対面や遠隔での実施については、罹患状況からやむをえないという認識であつたことと判断する。ただ Q の一週間あたりどれくらいを課題に費やしたか、という設問で30分～1時間という回答が担当授業では多く、遠隔での1時間がだすとすると、思ったより時間がかかっていると思つた。 | 自由記述では、ほとんどが「当該授業内容を遠隔でもすべてよかった」「専門的なことを学べた」「論文や資料、図解がよかつた」「わかりやすかつた」等（51件）、良好な意見が大半であつたが、演習系ゆえの「教材の活用をやりたかつた」（1件）や「教員対策としての内容をやって欲しい」（1件）、「内容が難しい」（1件）があり、わずか3件の記述とはいえ、遠隔での「課題のやりやすさ」と「実技系の内容」上、「難易度の調整」、さらには「保幼対象の科目にもかわらなく」「遠隔での教員採用試験対策」の要望は、遠隔の課題で、全体的に感じられた。ただ51件は良好な評価であり、結果的には、遠隔後半で、課題を多くしすぎない、盛り込みすぎないという点でこの結果であつたと判断する。 | オンライン授業において、これまで実施していなかった小テスト・復習レポートを課すことと、昨年度の学習ペースを見ながら、効果的な学習や小テストを引き続き実施していく。また、今回評価の高かつた視聴覚教材について、新たな教材を入手し、より効果的な活用方法について研究防止に配慮した新たなグループ学習の方法を検討し、学生の主体的な学習に基づき実践的な知識・技術の修得を目指す。 | オンライン授業では、学生の意見をとり入れながら一方的な知識の提示とならないように配慮する。同時に学生の学習ペースを見ながら、効果的な学習や小テストを引き続き実施していく。また、今回評価の高かつた視聴覚教材について、新たな教材を入手し、より効果的な活用方法について研究防止に配慮した新たなグループ学習の方法を検討し、学生の主体的な学習に基づき実践的な知識・技術の修得を目指す。 |
| | | | | | オンライン授業において、これまで実施していなかった小テスト・復習レポートを課すことと、昨年度の学習ペースを見ながら、効果的な学習や小テストを引き続き実施していく。また、今回評価の高かつた視聴覚教材について、新たな教材を入手し、より効果的な活用方法について研究防止に配慮した新たなグループ学習の方法を検討し、学生の主体的な学習に基づき実践的な知識・技術の修得を目指す。 | 本学での遠隔授業の研修会で、「対面で行える事は対面を待ち、遠隔でできることを」「対面の内容を全て遠隔に反映しようとすると無理がある」という資料は大変参考になつた（また、学科内で moodle の研修を担当された先生方に感謝したい）。今後新型コロナウイルス状況によっては遠隔授業が想定されるため、遠隔としてできることと、その課題の内容の深まりを考えつつ、実施していきたい。また対面授業の際のリストアップにも引き続き配慮していきたい。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|---|--|--|--|--|--|
| 古川 元視 | 教育方法論 国語科指導法 指導法特論(国語) | オンデマンドの授業やZoomの授業を積極的に取り入れ、工夫をした。特に、パワーポイントを活用し、声を吹き込んで説明を丁寧に行うように心がけた。Zoomの授業においては、対話をする機会を設けるようにした。課題は毎時間出して、確認するようになってから模擬授業を実施した。 | 概ね高い評価であった。特に、遠隔授業というところで、課題を出していたので、授業外での学習時間が大幅に増えた。やはり、対面授業ができなかったが、Zoomを実施したこと、対面授業のようにできてよかつたという受け取りがあった。 | オンラインでも授業が分かりやすかつた、模擬授業がわかりやすかつた、内容がわかりやすかつたなど、高評価だった。 | 遠隔授業になり、Zoomを使つたり、オンデマンドの授業で説明を丁寧に行つたりしたことがよかつたと感じている。思ったより、学生の評価がよかつたことが安心した。 | オンデマンドの授業の作り方は、私が勉強する必要がある。事前に資料を作成し、丁寧な説明を実施することが重要である。授業外の課題もあまりにも多くすると学生の負担が増えるので考えていきたい。 |
| 三宮 知恭 | 教職概論 教育課程論 算数 指導法特論(算数) 教科特講(算数Ⅰ) 算数科指導法 | 学修資料を読めば、理解できるように細かいところまで書くようにした。また、図や表をできるだけ使い視覚的にも理解しやすいようにした。算数関係の資料は、用語の説明や定義などは詳しくして、理解してもらい、課題を解くことで見方・考え方を身に付けてほしいのそののよような課題シートをつくつた。算数では、教科書に載っていない数や演算記号の成り立ちなどを、トビックスとしてつけ、興味がわくようにした。 | ○「教職概論」「教育課程論」は、パワーポイント(PDF版)でmoodle上に置く)中心の資料で学んでもらつたが、わかりやすいとの評価があつた。ただ、細かいため、スライドが30枚になつてしまつたものもあり、「要点を絞ってほしい」との意見もあつた。対面授業では、15枚以下にして、その場で説明を加える方が理解しやすくと考える。 ○算数関係では、「読んでだけでは理解しにくい。難しい。」という意見があつた。対面授業では、次回解説をしていったが、「丁寧に教えてくれた。」「これまでに知らないことを教えてくれた。」と高評価ではあるが、一方であきらめる学生も多かつた。また、オンライン授業では、学習内容の質問は授業後に質問に来る学生も出てきた。 ○「授業のために予習や復習の「時間」が全体平均よりも低い授業が多かつた。主体的に取り組ませる工夫が必要である。 | ○オンライン授業での、「学修資料の量と時間」「質問への対応」が課題であると受け止める。 ○対面授業では「3クラス(98人受講)になるとややまじくになり、先生の語や説明がわかりにくいくい。」という声があつた。 ○「授業の進め方の指示が変わる。」という声があつた(算数科指導法)。対面授業や進み具合から説明した計画から2度変更したことを指摘された。これまでの学習や学生の理解度を把握できていないかつたことを反省。 | ○オンライン授業でスライドが多ると、全体の集中度が下がる。 ○オンライン授業でわからぬ内容があつた時の双方向に質問・解答をして、全体に共有する手立てがなかつた。 ○説明を聞く時間が長くなつたり、スライドの字が小さくなる。主体的に自分で調べたり、復習したり、作成する動機付けや手立てが足りなかつた。 ○学生の実態やニーズ(目標)を把握できていない。 | ○文科省制作の「動画資料」を取り入れることは続けるが、時間が長いものがあつたので、見るポイントを与え、「〇分から 〇分ところを視聴する」などの支持をする。 ○オンライン授業でのパワーポイント資料の内容を精選する。(リアルタイムZoomなどの授業は環境的に厳しいか) ○オンライン授業での「質問」コーナーを用意し、一人の質問をみんなで共有・理解できるようにする。 対面授業では、その場で質問を聞き、全体に説明する。 ○対面授業で、一方的な説明にならないように、「数学的な活動」や考え、発表し、解決を目指す形をとる。 ○予習・復習(課題)が必然的に行われるように授業を構成する。 ○授業態度(雑談・他のことをやっている等)について、厳しく指導する。 ○パワーポイントや板書の字の大きさ、色など工夫し、見やすくする。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|--|--|---|--|---|---|
| 谷川 友美 | 乳児保育Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅰ 家庭科指導法 乳児保育Ⅰ 保育内容Ⅰ 心の健康 子ども達の健康と安全 | 課題には参考になる資料(作成資料、URLなど)を必ず添付した。課題に取り組み、教科書の何章を読むように指示した。少人数の授業ではズームを活用して出席ボタンを押すことで出席を把握できるようにした。 | 学生らは、全科目において30分から1時間の授業外の学習時間を確保していたことが明らかになった。科目「心と健康」に関しては全ての項目が平均を大きく上回った。科目「子ども達の健康と安全」に関しては、2年D・Eクラスの2クラスの授業を実施した。全く同じ内容にしたが、授業内容の評価がEクラスは全ての質問項目で平均より大きく上回ってしたが、DクラスではQ3-2,5,6,7で平均に届かなかった。 | 科目「子ども達の健康と安全」に関して、出席ボタンの存在を知らずに気が付かず、欠席になったことを改善してほしいと記述が4件あった。全ての科目に関して、資料の提示や教科書の具体的に関係する箇所を示したことを評価する記述が多かった。科目「乳児保育Ⅰ」「保育内容Ⅰ」「子ども達の健康と安全」に関して、資料のわかりやすさを評価する記述が多かった。授業の案内メールを授業時間前に送っていたことが良かったと評価する記述が多かった。 | 時間外の学習時間の結果よくなり、課題に要する時間が少なかった(課題の難易度が易)ことも要因の一つであるかと考へる。科目「心と健康」は少人数であったため、ズームを活用したことが学生の満足度に繋がったことで出席管表を作成し提示していたが、その形式が他の科目とは違っていたと考えられた。毎回の授業で、作成資料の提示や教科書の指定(関係個所の紹介)を行っていたが、その資料の程度(難易度等)は学生にとって適切なものであったと考えられた。授業時間前に、授業案内メールを毎回送信していたことは、学生が授業を忘れないことに繋がり、学生も「良い点」と捉える傾向にあった。 | 遠隔授業では、提示する使用をより学生の理解しやすい内容を検討しに必ず送信する。課題の難易度ももう少し高くする。遠隔授業では、オンデマンド形式を採用し、課題の提出をもっと出席とする授業を実施する。 |
| 山本 裕一 | 基礎演習 国語(書写を含む) 教科特講(国語Ⅱ) 言語表現 国際文化 | 今期は経験の薄いオンライン授業中心だったため、授業改善プランの実施が難しかった。オンデマンドが多かったの、資料を作りこみ、資料を理解するのに役立つフアイルやURLを張り付けて各自で理解を深められた。課題提出や振り返りで行うようにし、一人一人にコメントを返すことではできなかったが、特に返答を要するものについては対応した。 | オンライン授業中心であったが一部教科を除いて評価の得点は概ね良好であった。Q2-3「教材、教具の適切な使用」が他に比べて評価が低く、対面授業や課題の量が過剰であったためと思われる。また、1年と2年で大きく評価に差があった。科目が同じで、評価の傾向や自由記述の内容が変わらないため、昨年の授業との比較で考えて2年生の満足いく内容にならなかったと反省している。 | 自由記述欄では、説明が分かりやすかったという意見と双方に大きくかかったという意見の両方が存在する。また、資料が多い、課題が多いという声もある。かみ砕いて説明するためにPPTの枚数・文字数が増え、それに好感を示したものと抵抗を示したという情報も限られるため、「国語は小学校の科目だから」という誤解も生んでしまった。 | 突然のオンライン授業開始であったが、授業内容についての準備と検討は十分に行っていたが、学生の負担感についての配慮が足りなかった。オンデマンド方式なので駆力見ればわかかるようにと資料を多くした、それが負担になった。また、ムードルの使用について学習する間もなく、オンライン授業に入ったため、自動出席管理をうまく使えないことをはじめとして、様々な点で学生に不安を与えた。また、オンデマンドのため、出席管理が甘くなった。 | オンデマンド授業については自動出席管理を使わず、課題やパワーポイント資料の量を減らしたためか、今のところ、それらの点については不満は減ったように思う。対面授業が増えたが、そちらでもオンデマンド授業の失敗に鑑み、学生の声をフィードバックするよう心がけている。双方のいい点を知ることができたので、今後機会があれば、オンデマンドと対面のハイブリッドシステムを試してみたい。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|--------------------------------------|--|--|--|--|--|
| 中山 正剛 | 体育実技Ⅰ 体育科指導法 教科特講(体育) 進路指導Ⅱ | 体育実技では、実技の際に「ただ単に体を動かす」のではなく、その意味や種目の正しいルールなども説明していたが、それを「良かった」と評価している学生と「話が長い」と感じている学生がいるようでした。得意な学生は、長い時間やりたりだが、そこに合わせる苦手な学生にとっでは面白くないというこ続き課題である。 基礎演習は、10名の教員で担当しているが、課題としては、教室のクレーンが自動で切れることに気がないことに暑かったということのみであった。 | すべての科目ですべての項目で全体平均以上の結果であったことは、コロナ禍でのオンライン授業であったにも工夫したことや評価されたことと捉えている。特に、Q3-6「教員の授業に對する熱意・真剣さが感じられましたか」の項目は一番気にしている項目だが、個人で受けた授業のすべてが48以上であったことより、こちらの努力が伝わっていることが分かった。 | 体育科指導法では、指導案作成と模擬授業を中心にを行った。オンラインでもグループで協力できるように工夫したため、その点が自由記述でも良かった点として評価されたようである。Zoomでの発表を取り入れたことが高評価につながったようである。 | 以前より、moodleを活用していたため、今回のオンライン授業でも比較的スムーズに実施することができたことが要因だと思われる。 具体的には、こちらからの情報提供だけでなく、「自分だけならどうのプレゼンを聞いているか」という課題や他者評価などを聞いたことが良かったのではないかと思う。 | 改善点で挙げたような「授業の意図や内容を学生に伝える」ことや教室の室温などに注意をしていきたいと考える。 ほとんどの授業で高評価をいただけたが、これに満足することなく、引き続き授業研究を続け、今回の結果を真摯に受け止め、より良い授業のための努力をしていきたいと思う。 |
| 安部えつ子 | 器楽Ⅰ 器楽Ⅲ 音楽 | 急なオンライン授業の準備で初めは戸惑いがあったが、学科内のFDなどで操作について不安が解消された。音楽はテキスト学習の教材を準備していたため、割とスムーズに課題の提示ができたように思う。 質問についても毎回メールで問い合わせができるようにしました。内容の説明や解説などまで丁寧に行うことができましたと学生に分かりやすかったと思う。 | 全ての項目で全体の平均を下回っていた。特に到達目標の説明や確認が足りていなかったようである。 時間外学習についても15分未満の学生が7人いた。全ての項目で全体の平均を下回っていた。特に到達目標の説明や確認が足りていなかったようである。 | テキストの提示により、各自のペースに合わせて取り組めたことがよくなったようである。 | オンライン授業の当初、慌ててmoodle内の設定をすることがあり、到達目標の説明不足に繋がったように思う。 また、時間外学習についてもオンラインでの指導や成果(特に実技)の方法を考えないといけない。 | オンライン授業ではmoodleがスムーズに活用できるように普段から使い熟しておかないといけないと思う。 オンラインでは時間外学習の成果を計りにくい(特に実技)が良い方法を探しておく必要があると感じた。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|---|---|--|--|--|--|
| 向井 隆久 | 心理学 教育評価・統計法 教育方法と技術 人間関係論 保育内容Ⅱ 子ども家庭支援の心理学 | 今年はおんデマンド授業がほとんどであり、また履修者数が増えたため、受講生のネット環境やICTスキルの状態によって困難を抱える学生も多くなることが予想された。そのため、パワーポイントなどの資料には、これまで口頭で説明していたことを文字入力した上で、パソコンのスキルがなくても対応できるように、動画に変換して誰でも簡単に閲覧できるよう工夫した。また moodle のコンテンツの使い方をマニュアルの資料などを作成し、掲載するよう心がけた。 | 対面授業を実施できた科目や人数が多くなり、高い評価が得られ、問題はなかつたようである。しかし、オンデマンド授業で受講者数が多い科目については、例年よりも評価が下がっている科目が見られた。アンケートへの回答率が3割の科目もあり、理解が難しかったり、評価項目によってはオンデマンド形式での対応が難しくなったりするものもあるが、検討していききたい。 | 動画やたくさんさんの資料・事例・補足があるところ、詳しい説明があったところ、わかりやすかった、いろいろな観点からたくさん学ぶことができたというコメントが多かった。これらは意識して対策していた点で、ある程度功を奏したと言えそうである。改善点の記載はおおくないが、判断が難しい資料が多い、短くしてほしいという意見が複数上がった。大変さを感じる学生もいたようである。 | オンデマンド授業になってからも、対面授業で実施していた教育の質をできるだけ確保するように、内容を削り提供したり、解説や補足資料を準備したり、moodleの操作マニュアルを提供したりすることは、学生の学びにも繋がっていることわかった。ただし、文字数や情報量が増えることが、大きな負担になる学生もいる。他の授業でも合わせることで、学生は多くを学べる。課題をこなすことを強いられる。それを踏まえて、いかに教育の質を保ちながら、学生の負担を軽減するかを検討する必要がある。読む資料をできるだけ動画画化していく工夫や、必須の課題資料は限定し、より資料を深めたい学生が閲覧できる補足を深めたい学生が閲覧できる補足資料を増やすなど、学生自身の意欲や負担感によって、選択形式を導入するなどの改善を工夫したい。 | オンデマンド授業になってからも、対面授業で実施していた教育の質をできるだけ確保するように、内容を削り提供したり、解説や補足資料を準備したり、moodleの操作マニュアルを提供したりすることは、学生の学びにも繋がっていることわかった。ただし、文字数や情報量が増えることが、大きな負担になる学生もいる。他の授業でも合わせることで、学生は多くを学べる。課題をこなすことを強いられる。それを踏まえて、いかに教育の質を保ちながら、学生の負担を軽減するかを検討する必要がある。読む資料をできるだけ動画画化していく工夫や、必須の課題資料は限定し、より資料を深めたい学生が閲覧できる補足を深めたい学生が閲覧できる補足資料を増やすなど、学生自身の意欲や負担感によって、選択形式を導入するなどの改善を工夫したい。 |
| 渡邊 輝美 | 保育内容Ⅱ 保育内容Ⅲ 保育内容Ⅳ 保育内容総論 | 就職後の保育実践に役立つ知識や技術を学生が経験できるようにアクティブラーニング型の授業を計画していた。しかし、オンデマンド授業が大部分を占めた。moodle上のオンデマンド授業では、1年生が入学直後で何もわからないう状態からの出発であった。保育内容についてどのよう提示すれば知識を修得し、身に付けることが出来るか、手探り状態からの試行錯誤が続いた。履修内容の「ポイント」を押さえわかりやすくすることを一番重点を置いた。 | オンデマンド授業の資料提示について、履修内容の重要なポイントを押さえることを心がけた。その点については評価が高かった。概ね良好だが、やはり対面授業開始後の授業における取組の方が評価が高かった。学生は一方的に聞く内容でなく、自分でも考えたり質問に答えたりする参加型の授業を望んでいることがわかった。模擬保育やグループワークは出来なかったが保育現場についての知識や現状の話はとても役に立ったという受け止めが多かった。 | オンデマンド授業のワークシート提出方法について、各自プリントアウトする作業が難しかった。今後の課題とした。対面授業の回数が少なかつたが、模擬保育などを行うことが難しくなかつた。しかし、学生は知識だけでなく保育の現場で実際に役に立つ技術を身につける演習などを望んでいると感じた。 | 多くの科目でオンデマンド授業を受講した学生にとつて、学ぶというよりは、日々の毎日だつたと思われ。全教員の提示量について、どの授業量になるのか、俯瞰的な視野で自分のオンデマンド授業を組むべきときと考える。その点では、わかりやすく、重要なポイントが明確に理解できる授業内容の提示が必要と考へる。はじめのオンデマンド授業の導入は、学生にとつては取り組みやすいものではなかつたと思える。 | オンデマンド授業においては、教員が教科の履修内容やテキストの内容を学習内容を提示することの重要性を改めて再認識できた。特に1年生については、保育内容について履修が初めての学生が大部分である。保育内容の1～Vをどのように学び自分の知識として身につけさせていくかを考えなければならぬ。わかりやすく、重要なポイントが理解し覚えることが出来るよう今回のオンデマンド授業の経緯を踏まえてPPTやワークシート、説明内容を精選して授業を組み立てていく。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|----------------------------------|---|---|---|---|---|
| 高橋 一成 | 教職概論 教育課程論 | 学生が興味を持ち意欲的に学習に取り組み、写真や図等も取り入れたパワーポイント等を毎時間作成するなど、資料提示の工夫に努めた。また、学習内容の定着を図るため、授業の始めに「前時の振り返りクイズ」という小テストを実施し、答え合わせをしながら解説を行った。特にオンライン授業では、パワーポイントスライド一枚一枚に解説を加えた提示資料を作成した。 | 教育課程論・教職概論ともに、授業内容についてはすべての項目で全体平均以上となり、全般的に高評価であった。しかし、本授業の予習や復習、課題等のための勉強時間については全体平均を若干下回る結果となっていたため、今後の改善が必要である。 | 自由記述では「先生の授業はわかりやすい上に楽しかった」「授業の振返りにまじめなコメントがあった」「ワークシート形式なので復習がしやすい」など全般的に良好なコメントがあった。また授業資料が丁寧で作られていてとてもわかりやすいと感じた。「動画やパワーポイントを使っての説明があり、遠隔授業でもわかりやすく学習できた」などの声を多くみられた。今後も引き続き「わかりと授業準備」をめぐり、しっかりと授業準備を行っていききたい。 | 学生が意欲的に学習に取り組めるよう、授業の雰囲気づくりやパワーポイントで簡潔に整理し提示したことが、今回の結果の要因の一つであると考えられる。また、ONH for School や文部科学省の配信動画等も取り入れた丁寧な資料作りを心がけたことがつたと思われる。 | 今後も引き続き、授業の雰囲気づくりやわかりやすい説明、提示する資料の充実と工夫等に努めていく。なお、課題である本授業の予習や復習、課題等のための勉強時間の増について、授業中に学習した内容と関連したレポート等も適宜課すなど、見直しを十分に図っていく。 |
| 米持 広美 | 乳児保育Ⅰ 子どもの食と栄養 Ⅰ 家庭科指導法 | 今期はほぼオンライン授業であった。受け持っている教科ごとに、4月と継続しなければならぬと判断した6月にシラバスを組み替え、学生にテキストのページとともに提示した。また、指導法以外の教科では、知識の部分はスライド上でノートにまとめよう指示をして、毎回の課題とは別に、ノート提出を学期末に提出させた。 | オンライン授業であったが評価はおおむね良好であった。Q2-5の『学生からの質問・意見が述べられる配慮』ができず、直接メールが来た学生に回答するだけであったので低かったのだと思う。講義科目が多く、ついついスライドの枚数が増え、課題も課したものでQ2-3・4のように、意欲的に取り組んだ学生と、そうでない学生が出てしまったように思う。 | オンデマンド授業のスライドを大抵でまとめられる箇所と、見えておける箇所を印をつけておいたが、説明にスライド枚数が増えたり、説明を詳しくしたため、わかりやすかったという意見がある反面、カラムがちらちらと見えたり目がいらいらという意見があった。 | オンラインのスライドづくりが追いついていらず、明日の授業のことばかりに追われてしまった。もう少し余裕をもってポイントを押さえ、わかりやすい、学生が食いついてくるスライドをつくるべきであった。また、メールで直接質問してくる学生には返答していったが、人数が多いのでZoomともいわず、コミュニケーションを図れなかったことが一番の反省点である。 | オンライン授業は苦労したが、学生への資料提示の方法、課題の提示の方法がいざいざいざだと思つた。対面授業の現在でも moodle 上で、課題の提示、フィードバックを活用している。また、対面授業に使用した PPT や、資料、ワークシートを UP しておくと学生が講義を振り返ったり、教師が課外の課題を指示したりするのに役立つので、続けていきたいと考えている。そのためには、授業構想を早く考え、より効果的な資料提示と課題提示を考えたい。また、オンラインでの課題を対面で活用する場面をつくり、フィードバックと学生の意欲化につなげた |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|---------------------------------|--|---|---|---|--|
| 大田 亜紀 | 外国語指導法 英語コミュニケーションⅠ 進路指導Ⅱ | 前期授業は、どの授業も速隔での授業実施ということになったが、オンデマンドでの授業実施ではなく、双方向での授業を可能にするZoomで行った。 1年生の「コミュニケーション英語Ⅰ」は、英語に不安のある学生が多いことを想定し、できるだけZoom内でブレイクアウトルームを活用しながら、実際に英語をつかってコミュニケーションをする時間を設けるようにした。 毎回、視聴覚資料を作成し補足資料を提示しながら、テキスト資料の文法内容を丁寧に説明し、不安意識や苦手意識を軽減した。「外国語指導法」「教育実習指導（小学校）」等も、対面になるまで全てZoomによる双方向授業で行い、学生とのインテラクションを大事にするように努めた。 | どの授業においても、学生からの評価は高い結果を得ることができた。学生の活動を中心にすすめてきたので、受け身ではなく能動的な学習スタイルが、学生にとって評価が高かったと捉える。 「外国語指導法」では、努めて授業場面を想定したactivityをやってみせながら、授業イメージをもたせたことは学生にとって肯定的な受け止めが見られた。 前期は前半だけ遠隔授業で、その後は全て対面で実施できたことが、模擬授業を体験できたことが課題である。（対面での回数不足のため） | 「英語コミュニケーションⅠ」では、ペアやグループでの活動を多く設定したことが学生に興味深く参加できた。「英語は伝えやすく面白かった」「わがかりやよい」とする熱意が大事とわかった。また、苦手な英語を楽しく学べたという記述が多かったのは大変嬉しかった。 「外国語指導法」では、「コロナ補でいち早くZoomに切り替えてくれたおかげで学びを続けることができた」等、学生が学びに対して大変前向きな思いをもっていたことがよく理解できた。 | 遠隔授業を行うにあたって、授業準備は通常以上にとても時間を要した。 対面では場の状況でいくらかも補足、支援ができるが、画面上ではなかなかそうはいかない。それを補うために使用する教材、資料の厳選、それらをもとに分かり易いスライド作成と説明を試みたことは学生にとつて満足度の高さに繋がったと言えらる。 また遠隔では一方通行になりがちだが、工夫をすることで双方向にできることがわかった。 対面と同様にできないが、「遠隔授業でできること」の可塑性を感じた。 | 「外国語指導法」「コミュニケーション英語」「教育実習指導」が、対面で実施できなくなったが、遠隔授業の方法でも、教員側の十分な教材、資料、授業実施方法を工夫することで、学生への満足度は高くなることがわかった。 遠隔であったも学生との繋がりが大事であると感じる。学生からのフィードバックも受けながら、学生目線で授業づくりを進める大切さを改めて感じている。 |
| 島田 知和 | 保育内容Ⅱ 保育内容Ⅳ 幼児理解の理論と方法 | 今期の授業がオンデマンド授業が中心だったため、まず第一に教員からの一方的なものではなく、学生との双方向的なやり取りができるような授業を心がけた。 毎授業で動画を作成し、視聴しやすいうYou tubeで配信した。そして毎授業の学が提出した課題（主に授業の感想や学んだこと）を次の動画でフィードバックし、学生間で共有したり、質問などは一覧にしたものをPDFにし、moodle上で共有できるようにした。 | 同じ科目でもクラスによって評価が異なっている。平均と近い評価の科目もあれば、平均を上回っている科目もあった。特に学生自身の受講態度を評価する設問Q1が平均より低い科目が多かった。 | 自由記述欄では、オンデマンド授業で用いた動画について「わかりやすかった」という回答が多くなりやすかった。 また対面授業再開後に指導案の作成や模擬保育ができなかった。かつ、肯定的な評価がみられた。 改善点として、対面授業の際に「話すスピードが早かった」「スクリーンの文字が小さかった」という回答もみられた。 | 結果の要因として、受講態度については学生がさらに興味を持って授業に参加できる工夫が必要だとと言える。 受講態度が低いクラスがどちらでもAクラスで小学校希望をしている学生が多いことも要因の一つではないかと考える。 自由記述については、対面授業が後半の3コマほどしかなかったため、少し早口になってしまったと考える。 またスクリーンの文字の大きさにについても、これまでとそれほど変わらない大きさまででスクリーンを作成していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の対策で広い教室を使用したことと要因の一つではないかと考える。 | 今後は、同じ授業科目でもクラスに応じて若干内容を変えたり柔軟に授業を作成していく。 課題についても学生の状況や興味に添って、なぜその課題を行うのかに必要性を感じられるような内容を引き続き考えていく。 自由記述からは概ね肯定的な評価が多かった。スライドの大きさや話すスピードなどをさらに意識し、学生が積極的に参加できるように授業作りを取り組んでいきたい。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|---|---|--|---|---|---|
| 石川千穂子 | 保育内容Ⅰ 保育内容Ⅲ 保育内容Ⅳ 保育内容総論 | オンライン授業が中心となったため、教科書に沿ったパワーポイントを作成し、その説明のビデオにして資料を作成工夫した。 また、質問に対しても適時返答できるようフレイドバック（ラッパのマーク）の欄を利用して一人一人にコメントを返していった。 対面が再開してからは、なかなか全体で見ることができなかったDVD視聴や、教人数でのグループワークなどを取り入れて、みんなでき取り入れるように工夫した。 | オンライン授業中心であったが、評価の得点は、概ね良好であった。 資料作成や、教科書に沿ったパワーポイント作成音入りの説明ビデオなどの工夫や、毎回の質問に対しては、フレイドバック（ラッパのマーク）機能を利用したことが、効果的だったと思われる。 | 自由記述欄では、対応の丁寧さやパワーポイントでの声の説明がよいと高く評価を受けている。また、体験を通して説明が詳しく理解できたこと、フレイドバック（ラッパのマーク）機能の活用が、教科書を使いながら学習することが出来たこと、授業資料等の準備には時間がかかると、対面と同じように感じてくれたことについて、オンライン授業で質問を受けたりしながらのやり取りの必要性を確認できた。 | オンデマンド授業でも、PPT作成して双方向のやり取りができることが出来るようにフレイドバック（ラッパのマーク）機能の工夫をしたことが、学生の授業に対する満足度につながった。 しかし、全体で考えたり模範保育を体験したりすることも必要であり、対面授業も必要であると考えている。 | 対面授業が出来ない場合でも、オンデマンド授業で、授業資料のPPT資料作成の工夫や双方向のやり取りのできる授業形態の工夫をすることで対面授業の様に学生の満足度が得られる授業ができることが分かった。 しかし、一人一人の理解度や言葉だけでは伝えられない情報、説明などの面もあり学生がどれだけ取り込んだかについての把握は難しい。 課題提示の方法については、さらに検討し、改善していく必要があると思われる。 |
| 菅原 航平 | 障害児保育Ⅰ 心理学 子育て支援 保育内容Ⅱ 進路指導Ⅱ 子ども家庭支援の心理学 | 昨年度後期に改善点としてあげた、学生が意見を述べる機会の確保や、理解度を丁寧に確認することを意識して、毎回の授業での学生の感想や質問の紹介や、小テストとその解説を行った。また課題の動画でも行うように意識した。 | 改善点としたQ3-2「学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていきましたか」Q3-5「学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされているか」は、平均的な水準に達することができていたため、改善点として一定の成果があったと考えられる。 | 遠隔授業についても「通学中の電車内でも取り組めるような課題にしてほしい」という意見があり、今後そのようなことも考えていきたい。 また、「丁寧でよかった」という意見の一方で、「動画が長い」「動画が求めている」という意見もあつた。 | 遠隔授業においても対面授業と変わらない内容や双方向のやり取りとなるように授業を行った結果、良い評価を得ている部分もあるが、Q1-1「あなたはこの授業を休んだり、課題の提出が遅れたりしないか」という質問が「大きく低くなっていった」。 | 遠隔授業の負担感は、量的な面は良いバランスを探っていく必要があるが、学生はちよつとしたこと、質問のしづらさがあったこと、チャットやメール、授業コメント等で質問する学生もいたが、対面授業では隣の学生に聞いて済ませていた学生は直接教員に質問するハードルや面倒さがあつた。 そのため理解が進まず負担感が増した場合もあつたので、レポート相互評価や提出課題紹介等、学生間の相互作用も意識していき、さらに学生同士の学び合いや相互サポートが生じる工夫や、質問しやすくなる工夫を検討したい。 |
| 木戸貴弘 | 進路指導Ⅱ 保育内容Ⅰ 保育内容Ⅲ 情報リテラシー | 今期はコロナウイルス感染症の影響を受け、急遽オンライン授業となった。私自身もあつたが、学生が遠隔場所からでも安心して授業が受講できるような授業内容の説明や質問などについては moodle 上（PPT資料内）で共有するよう取り組んだ。 | Q2-1に関する質問（時間外学習の時間）に関して、全体平均と比較し低値になっている。予習や復習、課題等の説明不足がこのような結果を招いたと考えられる。 また、Q3-4については、オンライン授業では資料とともに動画を提示していたがその内容や説明が不十分だったと考えられる。 | 改善点の中で「文字やイラストだけだと分かりづらかった」等の記述がみられた。遠隔授業を考慮すると難しい部分もあつたが、適宜ビデオ撮影や動画の内容を工夫するなどして改善する必要がある。 また、各授業の振り返る時間をしっかりと設ける必要があつたと感じた。 | ほとんどの授業がオンラインによる遠隔授業というところを考慮し、より丁寧でわかりやすい授業を展開することが大切である。そのことが学生たちの不安の軽減や学びに繋がると感じた。 直接、言葉で伝えることができないうちの難しさから、資料の提示方法や動画による説明の工夫が重要になる。それらのことが今回の結果に繋がっていると感じた。 | コロナウイルス感染症の影響を受け、ほとんどの授業がオンライン授業となった。オンライン授業でもしっかりとした学びを得られ、また、学生の不安がでるだけ小さくなるように取り組んだ。 後期になると対面による授業も増えていくと考えられるため、前期授業の際に十分な時間を持つことのできなかつた、教員側と学生側双方の関わり合いのある授業展開をより意識して取り組んでいく。 オンライン授業で学生から得られた意見は対面授業になつた際にも大切になると考える。そのため説明内容や資料の提示方法などについても改めて考え、学生にとつて学びのある授業展開を引き続き検討していく。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|-----------------------------------|---|--|---|--|---|
| 大元 千種 | 保育内容Ⅳ 保育内容総論 幼児と言葉 保育内容Ⅳ | オンライン(オンデマンド型)授業が中心であったため、対面授業まで従来のグループワークができません。授業内容が単調になる予想ができました。特に1年生は一度も顔を合わせたことがないため、毎授業「はじめのご挨拶」動画を、著作権者に許可を取り絵本や紙芝居などの実演動画をmoodleにアップし、できるだけ前回の授業の学生からの提出課題のまとめをアップするように工夫した。 | オンライン授業であったが、評価の得点は概ね良好であった。平均より低い設問項目もあるが、極端に低いわけではない。2年生の保育内容総論のQ3-7、Q3-8については、教科書に基づきながらであったが、やはり説明不足のため、学生の理解が十分でないところがあったと考えられる。オンライン授業によって学生の学習能力および理解度の差が感じられた。 | 学生のペーパーにあらわして課題に取り組みよう常に言っていたためか、その点は評価されていた。教科書を使いながらの授業であるが、それだけでは十分ではないため別の資料などをアップしてはほしいという意見も見られた。小中の教科書のように順番に全部復習していく形式ではなく予習復習で読むようにしたため、意見をだしたりと考えられる。予習復習をほとんどしていないと思われるが、やはり課題に追われていたのではあろう。 | オンライン(オンデマンド型)であっても、一方通行型ではなく、学生の提出課題に対するコメントや、学生同士が意見共有できるように提出課題をまとめてmoodleにアップして、さらにそれに対する意見や感想を求めるときの双方向授業を努力したことが良かったと思う。また、授業の「はじめのご挨拶動画」や絵本や紙芝居の実演動画は顔合わせをしていない1年生との距離が縮まった気がする。対面授業になった時にスムーズに授業に入ることができた。 | オンライン授業であっても一方通行型の授業にしない工夫をしていきながら、対面授業と同等にはできないが、教員と学生との個別の繋がりができなく、受講生同士の意見交換やコメントの出し合い、情報共有ができればよい。音声や画像を入れたPPTも検討したいが、時間が長いPPTはかえって学生の集中力を阻害してしまうため、自分のペーパーで取り組めるようにPPTではないレジュメや資料提示で記述を工夫していきたい。授業の「はじめのご挨拶動画」や絵本や紙芝居の実演動画はささやかながら学生の気分転換になっていることを期待して行いたい。特に絵本や紙芝居は保育者を目指す学生たちなので、楽しみながら自分でも絵本や紙芝居に関心をもって練習をしていってほしいので、私の読み聞かせ方や演じ方へのコメントもとりたいたいと考えている。 |
| 岩本 貴光 | 保育実技Ⅰ 保健体育A (実技を含む) | 授業を展開するにあたり、学生が主体的に行動を起こすことができようグループ学習を多く取り入れ、体を動かすことに喜びを感じることができているようにした。 | 学生の受講態度は大変良好でアンケート調査を実施したすべてのクラス、項目において平均値を大きく上回っていた。また、授業内容におけるQ2-5を除くすべての項目において平均値を大きく上回っていた。 | 概ね、教師が一人一人を把握し、個人指導に当たって綿密な指導ができていたとの評価を頂いた。問題点として環境整備の点(プールの室温が上がりすぎているため)などが挙げられたが時間を短縮して配慮などを積極的に今後行っていきたい。 | 概ね高評価を得られる要因として、学生の主体性を重視したことが挙げられる。自ら課題をもち克服していく姿勢を育成することは、今後も続けていきたい。 | Q2-5に関しては、体育実技のため視聴覚機器を使うことはあまりないが、後期の授業では、ルール説明の時などに積極的に利用していきたい。引き続き学生主体に授業を研究して実践していきたい。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|-----|---|---|--|--|---|
| 野村 文宏 | 哲学 | <p>今回が初めての「授業改善プラン」であるから、それと対比で今回記述をすることはない。今期の授業を始めてみることは、「好き勝手に発言する」受講者が多かったのとは変えて、私の他の授業に「比較的自由に発言しても構わない」として、一定の秩序は必要だといふのが私の本来の考えではある。</p> | <p>4大でのアンケートと異なり、「全体平均」が、非常に高いことに驚いた。私への評価は「まあ、こんなものだろう」という印象である。「教員の授業に対する熱意・真剣さ」の項目は、自分は暑苦しい位熱心に授業をする方だと感じていたのと、上回ることに、短大の先生達の恐ろしさを感じた。</p> | <p>全体的にはポジティブな意見が多と思う。改善点として「話をくもくとした方がよい」との記述があるが、私としては十分に、必要以上にわかりやすく説明している。これに対しては「もっと真剣に考えて理解しよう」と努めた方がよい。大学生のなかから「わかりにくさ」の原因を教員に帰すだけでなく、自分の側の問題として考察する態度を学んで欲しい。そして「考えること・理解する」点においてもう少し真剣に考えて欲しい。それが伝わるように授業をしていきたい。</p> | <p>否定的な評価の原因として、「大学」における授業、勉強、学習間についてのイメージが、私と学生との間で齟齬していることが考えられる。私としては、「大学」らしい、「哲学」らしい授業をしたいと考えており、それを味わってほしい。</p> | <p>シラバスの説明について、内容的には十分に説明したつもりであったが、シラバス現物との関連づけが薄かった。次回にはプリントを配布するなどすることとしたい。「わかりやすさ」については、既に十分に「わかりやすいくらい」授業するつもりはない。「わかりにくさ」は当該事象の複雑さと、それと真剣に向き合わない学生態度の片方もしくは、両方に起因するからである。また、学生を思いうるような「わかりやすさ」は学生をスポイルすると考えるからであるし、場合によっては適度に難しくすることが学生の知性を刺激すると考えているからである。その意味で「わかりやすい授業がよい」、「授業はわかりやすくなければならぬ」という学生の思い込みに対しては、「わかる」とはどのようなことか、「わかる」ためには、どのような振る舞えばよいか等について説明することとで応えていきたい。具体的には、テキストの読み方、ものの考え方の話し方、聴き方等について意識的に説明していきたい。</p> |

【初等教育科 後期】

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|---------------------------|--|---|--|--|--|
| 仲嶺まり子 | 幼児と表現 表現と鑑賞 | 後期の授業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら対面で実施した。授業目標を毎時提示することと目的意識を持つことの授業参加を図った。また、保育技術に関する子どもの体験の学習及び事前学習と本時の学習の関連を重視して授業を行い授業内容の理解向上を図った。 | 全項目が平均を上回っている科目と平均を下回っている科目があり、科目によって評価に差が見られる。すべで対面で定期的に実施した科目の評価は高評価である。一方、通年開講において前期(オンライン)、後期(対面)で授業方法が異なり、各期の実施回数が不均等又は定期的に実施された科目の評価は平均を下回っている。 | 自由記述アンケートでは「グループ活動や発表、楽器を使った活動、毎時の授業目標の提示」が良かったという記述、「分かりやすい、保育士になって役立ち内容だった」という記述も多く見られることから、講義内容に関して概ね良好な受け止めと考えられる。 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、シラバスの変更や内容の入れ替えを行わないが授業形態に配慮し授業を進めた。特に、授業テーマを毎時再検討し授業が系統的に実施できたことで、学生の理解向上が図られ高評価につながったと考えられる。一方、平均を下回った科目は、授業内容が系統性に欠けていることが主な要因と考えられる。 | 授業内容の系統性、授業目標及び課題の提示方法について改善する。また、グループ活動の効果的な展開に向けて振り返りシートを改善する。 |
| 工藤 豊文 | 教育原理 算数 | ① 何回かオンライン授業があったが、わかりやすい授業と資料の作成を行なった。 ② 復習テストをほぼ毎時間実施し、内容の定着を図った。 ③ 授業に関連した内容の新聞記事などをまとめる課題をほぼ毎時間与えた。また、「算数」の講義では授業の最後に復習問題を毎時間あてた。 | 評価結果はおおむね良好であったが、授業時間外の学習時間が少ない。「算数」では20名の学生が15分未満であった。ほとんどの学生が、「わかりやすい」との感想であった。特に、算数での復習問題は、学生が相談しながら積極的に問題を解いていた。これは、アクティブラーニングにつながるものであると感じた。 | どの講義においても、「わかりやすい授業、資料、パワーポイント」「復習テストで内容の定着が図れた」といった自由記述であった。 授業に関連した内容の新聞記事等をまとめる課題は文章を読み取り自分なりにまとめる力がついたとの感想もあった。 | 「算数」の授業では、授業外の学習時間が少ない原因は、課題を与えていなかったことであると考える。また、ほとんどの学生が苦手意識を強く持っていることから、オンライン授業でも対面授業でも資料の内容などの精選や工夫する、ゆっくりと説明することなどで、その克服を図った。それでも数名の学生には厳しいものであったようだ。 | ① これまで以上に授業の資料、課題や復習問題等に取り組みやすいものを取り入れる。 ② ゆっくりと説明することを心がける。 ③ 授業外の学習時間を確保させる課題を課す。 ④ 来年度も、対面授業で、マスクの着用等新型コロナウイルス対策を徹底する。 |
| 八幡 雅彦 | 英語コミュニケーションⅡ 教科特講(外国語) | 学生にとりて授業がより理解でき、充実したものになるために毎回対面授業の予習課題をオンラインにて指示した。また教科書をなぞっただけの授業にならないよう応用課題もできるだけの課題を出すことにした。これらの課題を出すにあたってはヴィジュアル的なものをなるべく多く入れるよう心掛けた。 | 自分の目標は、「この授業は満足ができたか」という質問は、以前指摘されていた「話が分かりにくく、非常に参考になった。以前指摘されていた「話が分かりにくく」という欠点はほとんどなくなり、「はつきりわかりやすい」に変わった成果と思う。しかし「特定の個人にしか指し示さない」という指摘が、以前はなかった。moodleで出欠を取ることが難しくなったが、なんとかしたい。 | 「この授業が満足できているかどうか」という質問は、いずれも平均値を下回ったのは授業準備をしっかりとやっていたためと思われる。平均値を下回った要因のひとつはパソコン能力の未熟さがあつたと思われる。 | 今後とも対面授業の中にオンラインの工夫をする。毎回オンラインによつて予習課題を与え、翌週にその振り返り授業を行うことは好評を得た一方、ただ単なる答え合わせに過ぎないという意見があつた。答え合わせ+アアルファをさらに加える。学生と共にパソコンを用いて授業を進めていったが、moodleをはじめもつと多くの機能を覚えて、特にフィードバックを今まで以上にを行う。対面の部分に関しては、もつと多くの学生と対話ができるよう、多くの学生の名前を覚えるよう心掛ける。 | |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|---------------------------------|---|---|--|--|--|
| 後藤 善友 | 数理・データサイエンス入門 理科 物理学 | オンライン授業が続く状況がなかで、学生への負担が大きくなっていくことが各種調査や他大学の情報などからわかってきた。そこで、課題の分量等が多くなりすぎないように配慮するとともに、提出期限等についても長めに設定するなど工夫をおこなった。 | 履修者が40名以下の授業(理科、物理学、等)では評価は比較的良かった。しかし、200名を超える授業(数理データサイエンス入門)では、評価結果は平均点を大きく下回った。大人数授業は3密を回避する目的で15回全てオンライン形式により実施したことで、学生からの質問等に十分に対応できなかったことが原因だと考えられる。 | データサイエンスについては、レベル・内容ともに高く評価している学生が少なく、pythonプログラムなどや、困難を感じている学生も多かった。理解が不十分な学生に配慮して課題のpythonコードを丁寧に説明しすぎると、理解の早い学生にとっただけの活動になったり、レベル設定が困難だった。また、moodleでの質問方法がわからなくなったり、メディアセンターの場所がわからないなど、授業内容以外の基本スキルで問題を抱えている学生の記述も散見された。 | オンライン授業により、授業に関する情報交換がうまくでき、評価が低かった原因だと考えられる。授業動画の再生回数やmoodleのアクセス回数を見る限り、授業に積極的に参加している学生も一定数いる。また、一部の学生はmoodle上の質問機能(メッセージ機能)もあまり活用しないと考えられる。 | 次年度もオンライン授業が継続すると考えられるため、授業においては質問やディスカッションの機会を出来るだけ多く設けることで、授業改善につなげたい。 また、オンライン授業にうまく対応できていない学生については、オンラインでの質問スキルに加えて、オフラインやメディアセンターなど、学内のさまざまなリソースを活用するリテラシーが身につくよう指導したい。 |
| 藤田 光子 | 器楽Ⅲ 器楽Ⅱ | 今期はすべて対面授業で実施できた。前期科目(一部遠隔)とのつながりが考慮しなかった。実技内容は実技の難しい内容は一部変更し、また遠隔に変更されることも考慮したうえでmoodle上への資料提示や連絡なども併用しながら実施し、補足的にmoodleを使用する方法を取り入れた。 | 個人で担当している科目「音楽」については良好であった。クラシックによる若干の差が見られたが、対面での授業であったため授業内で1つ1つ解決できた。こと多く良好に実施できた。複数担当の科目「器楽」は概ね良好であったが、クラスによる若干の差が見られた。 | 「音楽」については非常に良好であった。対面による問題解決は迅速であり、学生にも効果的であった。学生の状況を見ながら振り返りを多く取り入れたことには効果的であった。「器楽」においては習熟度別についても検討が必要と感ずる。担当者やクラスによる意見に差が見られた。 | 対面授業の満足度が高いことがわかり、それが重要な要素であることが再確認された。学生がわからないことを見ればわかる見直しと、ここを見ればわかる復習ができてきたことと、授業の在り方として基本であるが、特に今年はこのことを実感する状況であったと思う。 | 学修支援システムの活用と対面授業の組み合わせは非常に有効に感じている。今後の授業においても学生の振り返りの機会についてシステムを活用し充実させること、またそれらを対面授業の中で十分に扱いきれりと定着させることをめざしたい。また実技科目については習熟度別などの検討も必要性を感じているため検討を開始したい。複数担当の科目については引き続きこの結果を共有し授業改善を進める。 |
| 伊藤 昭博 | 進路指導Ⅰ 図画工作 幼児と表現 幼児と環境 | 一部の科目(図画工作)で遠隔授業のための教材作成に取り組んだ。また、対面での授業(幼児と表現、幼児と環境、進路指導Ⅰ)は、コロナ感染症防止に備え、2教室で時間差を設け、同時に実施した。 | 対面授業の「幼児と表現」「幼児と環境」は、概ね平均値を上回る良好な結果であった。一方、遠隔授業の「図画工作」については、平均値を下回る結果となった。 | 良いと思う点では、いろいろな絵画表現を学ぶことができた。乳幼児でも絵画が楽しめることを知った。自分たちで考えて作品を作ることでできて楽しかった。という意見があった。 また、改善点では、遠隔授業の課題でフィードバックがほぼなかった。moodleの説明が解り難かった。等の意見があった。 | 遠隔授業の課題について提出のことが主になり、フィードバックが、しっかりとできなかつたことが要因と考えられる。また、moodleでの課題説明が詳しく図解を入れて解説したことが、簡潔に入り易くできなかつたことが要因と考えられる。 | 遠隔授業の課題についてフィードバックをいかに効果的に実施していくかが今後の課題である。遠隔授業の中に何回か対面授業を組み込み、課題を提出してもらいフィードバックする方法が、今のところ現実的であると考える。 また、moodleでは、図解だけでなく、動画(ユーチューブ等)を取り入れ、簡潔に解り易く解説を行い、毎回、質問ができるようなコーナーを設けたいと考えている。そのため、遠隔授業のための教材作りを研究し、学生が意欲をもつて取り組める授業にしていきたい。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|-------------------------------------|---|---|--|--|---|
| 河野 伸弘 | 法学(日本国憲法) | 法学1C・1Dは9月19日から遠隔授業に向け、学習教材等がインターネットや高校のワークポイントで授業プリントを作成した。更に、5回の確認テストを配信して重要事項の理解・定着の工夫をした。生徒指導論/進路指導論は対面授業で3回の小テストを実施した。 | 授業内容の評価項目 法学1C…4.30 法学1D…4.13 生徒指導論/進路指導論…4.62 全体平均…4.39 Q2平均勉強時間 法学1C…2.44 法学1D…2.36 生徒指導論/進路指導論…2.25 全体平均…2.67 家庭学習時間が平均より少ない状況である。 | 遠隔授業：「授業プリントが分かりやすい。確認テストの復習ができ理解できた。」の評価であった。 対面授業：「分かりやすい説明。先生の熱意を感じた。」と高評価であった。 | 法学1C・1Dは、シラバスを変更して15回(遠隔授業14回、対面授業1回)を実施した。インターネットや高校の教科書等自学学習を取り入れ、5回の確認テストを配信して重要事項の理解・定着の工夫をした。生徒指導論/進路指導論は対面授業で3回の小テストを実施した。また、「小学校学習指導要領解説 総則編」を引用して、重要事項の定着と採用試験対策も実施した。 | 対面授業ができない場合でも、遠隔授業で補えることが分かった。ただし、具体例の提示等に限界があることも分かった。家庭学習時間を増加させるために、課題提示の方法・量等を含め今後改善していきたい。 |
| 高橋 俊二 | 教育原理 教育課程論 教育職特論 指導法特論(社会) | 教科等の指導法の授業については、指導案の作成や模擬授業を多く取り入れた。教職に関する授業については、グループでの討議・発表を取り入れた。授業の最後に「振り返りの課題」に取り組ませ、授業内容の定着を行った。 | 評価は、概ね良好であった。講義が中心となった「教育原理」「教育課程論」では、すべての項目で平均以上だった。他の専攻科の授業においては、Q3-5やQ3-7の評価が低かった。 | 「わかりやすい丁寧」という評価が多かった。講義中心の教育原理「教育課程論」では、「先生が小学校勤務の時の実体験が聞けて今自分が何をすべきか確認できた」「先生の体験から学んだ」等の記述が多かった。反面、一方的な話が多かつたため「意見を述べたい、質問したいする時間が欲しかった」等の記述があった。 | 「教育原理」「教育課程論」で、自分が作成した資料を毎時間配付して授業をしたり、小学校の教員時代の失敗談や子どもとが高評価につながった。専攻科の教科等の指導法の授業では、オンライ授業もあり、学習指導要領に関する課題のみで、十分に模擬授業等ができて目標達成できなかつたことが要因である。 | 来年度も教科等の指導法の授業については、学習指導案の作成や模擬授業を多く取り入れる。オンラインになった場合は、Zoomや録画等を使い、模擬授業のあり方を工夫する。講義が中心になりがちな授業については、グループでの討議・発表の場を取り入れた。振り返り課題を活用したりした授業を行い、改善していく。授業の最後での「振り返りプリント」の課題を吟味して、より授業内容の定着を図る。また、授業内容に沿った小学校の教員時代の体験談も多く取り入れたい。 |
| 落合 弘 | 法学(日本国憲法) 社会 教育原理 | ICT機器の活用(特にオンデマンドでも活用可能な動画教材)を一層進める。 ①1時間完結型授業の展開と、これに連動するワークシートを使って学習を進める。 ③時事問題や初等教育に関する実践的課題を教材化し、毎時間取り入れる。 | ①ICT(特に動画教材)の使用はオンデマンドでの活用が容易であり、学生に好評であった。 ②1時間完結型の教材構成は有効であり、ワークシートの活用も学習に取り組みやすいとの声があった。 ③時事問題について「楽しく学習できた」などの回答があり、継続したい。 | 概ね好評の記述が多いので、今回の方法を継続する。オンデマンドでは、「ダウンロードで手間取る」や「印刷に費用がかかる」などの記述があった。できる限りオーバーレスで実施できるように工夫する。 | ICTの活用(動画教材の活用、時事問題の教材化)は学生の学習にと有効である。オンデマンドでの授業でも動画教材は有効である。さらに進化させた教材の作成をすすめ、オンデマンドでも対面でも柔軟に対応できるようにする。 | ①ICT機器の活用(特に動画教材)を一層進める。 ②1時間完結型授業の展開と、これに連動するワークシートを使って学習を進める。 ③時事問題や初等教育に関する実践的課題を教材化し、毎時間取り入れる。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|--|--|--|---|--|--|
| 伊藤佳代子 | 子ども家庭福祉 社会的養護Ⅱ 保育相談支援 | 講義形式の授業はほとんどオンライン、演習形式の授業は対面であったため、両方の特性を踏まえて授業内容を工夫した。具体的には、小テストの実施、感染防止に配慮した演習（制作・グループ活動）を実施した。 | オンライン中心の3クラス合併授業より、対面でクラスごとに開講した授業の方が、全般的な評価が高かった。 今期は、グループでの課題提出から個人課題の提出に切り替えたことで、前回より学習時間が伸びて主体的に授業に取り組むことができたようである。 | 知識に基づいた制作（理想の施設パンフレットや児童福祉に関する）や視聴覚教材（DVD等）による事例検討が好評であった。知識を踏まえた思考力・実践力を習得するたためには、演習を工夫して学習意欲を高めることが重要であると考える。 | 遠隔授業が盛んになったため、学生は他者との意欲的に取り組むことの難しさを感じる。他者との交流や制作活動を好む特性があるため、知識の一方的な説明は低いと考えられる。 | 好評であった演習の制作物については、今年度の学生から後輩へ教材として使用する許可を得ているので、内容を精査して効果的に活用していきたい。加えて、演習授業においては、感染予防に関して学生の意識を高め徹底する。 遠隔授業では、提示資料をより分かりやすく修正して小テストに反映させることと、学生の意見を取り入れる工夫を検討する。 |
| 吉村 壮明 | 指導法特論（図画工作） 図画工作 幼児と表現 教育実習指導1年 教育実習指導2年 | 前期に引き続き、学生が取り組みやすい内容を考え、遠隔授業はmoodle上の資料を作成した。また、対面ではコロナ禍を回避するために、換気に配慮し、机上の消毒を徹底した。 | 教科書によってはmoodleの場合、オンデマンドであることから、Q3-5の学生との質疑のやり取りを高める必要があると思われる。また、少人数の対面授業の場合、Q1、Q3までの「5. 思う」の回答が非常に高いため、演習系は遠隔よりも対面、大人数よりも少人数の方が学生の学修満足度という観点から好ましいと判断する。 | 自由記述では、授業科目による回答傾向のばらつきがあったが、これは遠隔開講式や対面形式による授業形態の差を反映していると思われる。 後期の場合、少人数の演習で自由記述の好意的回答が多いため、根本的には演習と講義の適正人数があることと改められた。 また、遠隔は小まめに思われた。 | 上記の結果から、少人数の演習が教育効果が高いと考える。対面を希望する期待値が、そのままアンケート結果にも反映されてきていると推測できる。また、遠隔ではオンデマンドやリアルタイムの特性がやはり結果としてあらわれていると思う。 | 対面型は今の状態をキープする必要があるが、課題はオンラインの授業で、今後は動画アプリケーションを活用した内容やレスポンスを考え、授業構成に必要を感じた。 |
| 平石 弘文 | 生徒指導特論 総合的な学習の時間及び特別活動指導特論 教育相談 | 後期もオンライン授業中心であったため、グループワークや集団討議・模擬授業の実施ができた。対策として、各自が作成した指導案やレポートをオンライン上で共有し合い、それぞれにコメントを出し合うようにした。さらに、前同様に、毎回質問を受け付けて次回の授業の中で質問対応のコメントをするようにした。 | 各クラスとも意欲や能力の幅が大きかった。今期は専攻科1年に向けての授業内容や方法の質を上げてみた。今年度のクラスの学生の一部に関しては、ハードルが高かった。しかし、本年度も反映した。しかし、本年度も専攻科1年生の意識の低さを改めて感じた。来年度の授業では一人一人への対応を検討する。 | オンライン授業でも双方方向のやり取りができるように工夫することや、学生の満足度を高めることが分かった。ただし、模擬授業等は、対面授業で実施しにくいと難しい。また、オンデマンドでは様々なエピソードを伝えることにも限界があるため、対面授業と遠隔授業を効果的に組み合わせる必要がある。 | オンライン授業の限界を感じた今期であった。課題提出をもって出席扱いとしたが、実際にどのような取り組みにしているのかが全く見えない。コロナの状況にもよるが、対面授業とオンライン授業を効果的に組み合わせる必要がある。特に、演習やGW等を組み合わせる必要のある時期は、可能な限り対面授業の実施が必要である。また、初めて大学生になった短大1年生には、対面授業で大学の授業の面白さを伝えながら、我々教員との人間関係の構築も大切である。来年度はこれらのことを踏まえた授業の展開を心がける。 | |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|--------------------------|--|---|--|--|--|
| 古川 元視 | 教科特講(国語Ⅰ) 国語(書写を含む) | オンデマンド授業において、できるだけ学生が理解し、説明したり、パワーポイントの資料を作成したりした。対面授業では、コロナ対策をして、グループ学習や司会型授業を取り入れた。ワークシートは、毎回書かせ、コメントを入れて次の時間に返却するようにした。家庭学習の時間も計算して課題を出さすようにした。 | 全体的には、おおむねよい評価であったが、課題の未提出者が多いクラスは、学生の意欲面で他クラスより低かった。昨年度の課題であった家庭学習においては、時数が飛躍的に上がった。 | 全般的には、熱心である、授業がためになる、保育者になった時に大変役立つ、いろいろなかされたことを理解することなどができたことの高評価であった。授業時間が伸びたことが改善点として記載があった。 | できただけ、講義形式にならないうちに、自分たちで主体的に学習を進めようとしたこと、や今ままで自分が経験したことに基づいた内容にしたことが要因だと考えられる。 また、大学図書館を使って、絵本に関する授業を多く実施したことは、保育者になった時に役立つことにつながったと考えられる。 また、何時間もかけてオンデマンド用の資料を作成したこと、高評価につながった。授業時間が伸びたことは1単位時間の計画が甘かったこと、計画が甘かったこと、内容を詰め込みすぎということである。 | オンデマンド用の資料作成については、まだまだ未熟なところがあるので、得意な先生にお尋ねして、マスターしていきたい。 来年度からの指導法では、端末機器やパソコンを使用する授業を展開する予定である。これも、研究を重ねていく必要がある。 授業時間は、厳守する。 |
| 三宮 知恭 | 算数 教育方法論 教科特講(算数Ⅱ) | 下記のような前期の改善プランを実行した。 ①「動画資料」を活用し、見るポイント絞る。 ②パワーポイント資料の内容や板書を工夫する。 ③遠隔授業でも対面授業でも双方の授業になるよう工夫する。 ④授業態度(雑談・他のことをやっている等)について、厳しく指導する。 | 授業評価の回答数が少なかつたが、全体的に評価は前期より分かった。後期は対面授業が半分以上はでき、各授業では授業後に生の授業の反応や感想を受け止めることができた。「算数」では、もう一度説明を求めて質問にくる学生がいたり、前の方で授業を受けたり、拳手をしたりする学生も増えた。「予習」や「復習」をして授業に臨む学生は、少なかつた。 | 遠隔授業では、「学修資料の量と時間」をさらに改善すること(解説音声付など)が求められている。 ○双方向の授業になるために「質問への対応」が課題であると受け止める。 ○対面授業では「2クラス(80名弱)になるとやかましくなり、先生の話が聞きにくい。」という意見があった。 ○学生の理解度をもっと把握すべきである。 | ○学修資料を与えるだけでなく、全体的集中度が下がり、主体的に取り組めない。 ○主体的に自分で調べる学習になるための動機付けや手立てが足りなかつた。 ○学生の実態(理解度)やニーズ(目標)・課題を把握できていない。 | ①既存の「動画資料」を取り入れ、自分のPPT資料に音声など入れ込んだりして、対面授業と同じような授業を構成する。 ②遠隔授業でも対面授業でも途中に「質問」コーナーを用意し、一人の質問をみんなでも共有・理解できるようにする。 ③対面授業ではその場での反応や質問、遠隔授業では課題シートから学生の理解度を把握し、それに合った授業の進め方をする。 ④予習・復習(課題)が必然的に行われるように演習形式やレポートを作成させる。また、レポートオとして整理させる。 ⑤「算数」関係の授業では、考える時間と解説する時間を取り、学生の理解度によって字修を進める。 ⑥双方向の授業もでき、小学校教員として現場でも活用できるように「ロイノート」を積極的に活用する。*以上のことを実践するために、学生には、毎時間パソコン(タブレット推奨)を持参させる。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|---------------------------------------|---|---|--|--|---|
| 谷川 友美 | 子どもの健康と安全 子どもの保健 進路指導Ⅰ 乳児保育Ⅱ | <ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンドのみの授業では、高声付PPTを作成し、ムービーでアップして授業を行った。 ・新型コロナウイルス感染症対策を意欲した物品管理や実践を学生への注意喚起を行った。 ・対面授業では、体調不良学生の把握を徹底的に行い、できる限り考慮し授業を進めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・対面授業では、違うクラスを対象に同じ科目を教えたが、授業評価の差異が大きいものが多かった(乳児保育Ⅱ)も具体的に、授業の達成目標の到達度、教員の熱意・真剣さ、教具の利用の適切さであった。 ・オンデマンドのみの授業では、Q3.5、Q3.4、Q3.1は低かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの活用をより求める声があった。 ・声がかさく、授業内容が聞き取りにくいとの記述が多かった。 ・演習が多かったため、非常に学び深かったと言った内容が多かった。 ・実習で使用するネーム作りは実施できよかつたことと記述する学生が多かった。 ・履歴書指導は好評であった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・声がかさく聞き取りにくいのは、マスクの影響、マイクが静寂を保持する話術のなさが原因であると考えられる。 ・履歴書指導では、履歴書を具体的に書きながら見直しを進められた。スロースピードは大変良かった。スロースピードで確実に押さえ進めることを学生が求めているのではないかと考えられる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を意欲した物品管理に努めたが、学生の受け止めは平均的であった。具体的な管理状況の説明や実践を学生の前で見せながら授業をする必要があると考えた。 ・マイクが使用できると教室では全声の小ささを指摘する意見が多かったため、教務課へ申し出て解決をはかりたいと思う。 ・感染症対策を取りつつも演習といった実践的な学びを取り入れることが、学習効果を高めることに繋がると考え引き続き演習を取り入れていく。 ・音声付きPPTの音声も授業の肉声も明朗な発声ができている指摘があった。今後意識していく。 ・ネーム作りを計画・制作する授業を何等かの科目で取り入れていく。 ・授業ペーシスを学生に合わせたい。 ・オンデマンドの場合、学生との双方のやり取りを出来る機能を活用し、学生のニーズを充たしていく。 |
| 山本 裕一 | 国語(書写を含む) 文学 幼児と言葉 | <ul style="list-style-type: none"> ・出席確認を自動出席を使用せず、オフラインは授業の前に読み上げるか、提出物によって取ることにした。 ・また、オンライでも自動出席ではなく、授業後の書き込みによってつづけることとした。 ・オンライン授業時に難易度が上がり、課題が多いという傾向があったので、そこを軽減した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・同じ科目でも、クラスにより高評価なもの、低評価なものがあり、傾向がつかみにくいのがQ3-4 教員の話し方がオンライン、オフラインともに他に比べて低い。複数指示を出すときに混乱があったので、そのような時は、極力話すことをスライド化、プリント化した方がいいと思われた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・PPTが多い、課題が多い、スピードが早い、作業時間が短い、関係ない話をするな、出席確認が遅い等の意見と、PPTが丁寧でわかりやすかつたという学びができたことと意見が共存している。個人の能力や志向をうまくとらえられていないかと反省する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・前期のオンライン授業を踏まえて改善した点はおおむね好評であったと思われる。 ・説明、課題が難しい、スピードが早い、という意見は、「このレベルの設定はまだ学生の平均的能力に見合っていないことから生じると思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・オフラインは出席を口頭で素早くとる。複雑な説明は極力プリント・スライド化する。じっくりと時間をかけ、PPTを検討する。説明についても事前に十分な検討をする。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|---|---|---|---|---|--|
| 中山 正剛 | 指導法特論(体育) 体育 幼児と表現 幼児と健康 | 「教員が教える」というスタイルを出来る限り少なくし、「調べ学習・グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション」などの時間を多くし、「学生が自ら主体的に学ぶことが授業を主体的に模索しながら授業をmoodleの活用を、さらに学生が学びやすいように工夫した。 | ほとんどの科目で全体平均以上の結果であったことは、オンライン授業ではなくとも、moodleをうまく活用できたこと、時間外学習の促進や、授業の振り返りが可能になったことが要因と捉えている。また、Q36「教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか」の項目はいつも気にしている項目だが、個人で受け持った授業のすべてが平均以上であったことにより、こちらの努力が伝わっていること、この点は満足している。 | 今回工夫したところが、特に自由記述の結果として出ている。具体的には、「それぞれの学生が担当箇所を学んで発表する機会があったため、自分の発表も自分の学びに繋がったり、自分たちで考えたり話し合ったりする時間も無く集中できた」とあり、効果的であったことが分かった。 | 以前より、moodleを活用して授業外学習や振り返りを意図した授業をしていたが、今回は、より学生が活用しやすい工夫をしたこと、今回の良い結果になった要因だと思われる。また、ALを増やす工夫も良かった点である。 | 今回の結果に満足することなく、引き続き授業研究を続け、学外のFD研修会にも積極的に参加したい。また、AL型の授業をさらに充実させ「主体的・対話的で深い学び」を推進していきたい。さらに、オンライン授業だけではなく、授業をより良くするたためにも、授業を、授業外学習や授業の振り返りを促進するよりよい工夫をさらに追及していきたい。 |
| 向井 隆久 | 学習と発達 教育心理学特講 教育方法論 発達心理学 子どもの理解と支援の方法 発達心理学特講 | 大人教の対面授業ではさまざまに学生が受講しているため、できるだけ資料を見やすく、わかりやすくするように努めた。また授業内容について面白い作成する機会を設け、学生が相互コメントしたり、授業内でも問いに回答するようにした。特に遠隔授業では、moodleの操作や課題のやり方について、マニュアルを作成し、操作で困る学生を減らすよう心がけた。 | ほとんどの授業・項目で概ね高い評価が得られていた。初等教育科2年と専攻科の授業では多くの学生は、授業外学習の時間がしっかりと確保できており、授業も学生主体になっていて、評価も高かった。初教1年生で3クラス合同の授業については、学生の受講態度が平均より低い項目が多かったが、大講義室で人数も多い状態でのように対応するかが課題である。 | 資料の見易さや動画も含めた解説がわかりやすかったという点や、学生主体で行った発表などの教え合いの内容も学生にとっては楽しくできたようである。遠隔授業ではどのような結果になるだろうかと思っていたが、案外遠隔授業でも同様の評価であった。一方で、課題が難しく、調整が必要であることがわかった。 | 資料のわかりやすさは意識したところでもあり、その結果良い評価に繋がったものと思われている。遠隔授業で学生主体の発表は難しいだろうかかと懸念していたが、実際にはホジティブに捉えている学生が多かった。1つは対象クラスの学生が優秀な学生が多くいるクラスであったこと、もう1つはmoodleの操作マニュアルや発表・資料作成ルール作り、その周知・共有を対面よりはるかに力を入れて行なったことが良かったのかもしれない。しかし、これらの課題を難しく感じている学生もおり、多様な学生に幅広く応じることができるよう見出していく必要があるだろう。 | 今回の授業内容で、学生から高評価であったものでは、課題がよい復習になることと、逆になりに感じている学生がいたり、提出時期が早いと感じている学生がおり、特に受講生が多い授業では、学生の多様性に対応できるような、レバ別々の課題を用意したり、提出期限について学生とも相談の上で調整することを試みるようにする。オンライン授業では、moodle操作のマニュアルや課題の説明をしっかりと用意する。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|---|--|---|--|--|---|
| 渡邊 輝美 | 子どもの理解と支援の方法 幼児と居る文化 幼児と言葉 幼児と人間関係 | コロナウィルスの感染防止対策に細心の注意を払い、前期のオンデマンド授業ではできなかったアクティブラーニング型授業を行える範囲で実施した。就職後の保育実践に役立つ知識や技術について学生が経験を、習得できるように立脚し、習得できるようなことを目指して一人一人が指導案作成し、改善点も指導した。 | 対面授業の方が評価が高いように思う。授業内容については、学生は一方的に聞くのではなく自分で考えたり、やってみたりなど参加型の内容を望んでいることがわかった。新聞記事や事例、経験談など保育現場のリアルタイムな現状についての話はととても役に立ったという受け止めが多かった。今後は、Q3-2・Q3-7の結果から、毎回の授業の到達目標を明示し、授業の終盤にはその目標が達成できたという意識や確認ができる進め方を構築していく必要があると思われ。 | 「実際の保育の場で役立つような内容はかなり多かった。」という記述がありだした。また、具体的な事例で保護者とかかわり方について考えた内容が好評で勉強になったようだった。いずれにしても学生は現場で役立つという気持ちがあるという。自分の勤務経験で身につけた知識や技術を今後でも伝えるべきだ。また、学生は授業の中で友だちの意見を聞き、自分ごととして自分の考えを述べることができ、自分の考えを述べることができ、可能な範囲で意見交換ができていくことを目指していきたい。 | 「保育内容」などの知識を伝え、理解できるようにするだけでなく、この短い2年間の中でいかに保育現場で役立つ知識や技術を伝えるかが重要で、学生もそれを強く望んでいると思われ。今、保育施設に就職した保育者に望まれるのは「即戦力」である。そのためには、就職した次の日から保育士や教師として戦えるようにつけていく必要がある。その意味から保育実践者として自分のスキルが役に立つと思われ。 | オンデマンド及びオブライト授業におけるmoodle画面活用のための知識や技術が伴っておらず、習得の必要がある。学生は多くの授業を履修するので、できるだけ授業内容をオンデマンドで押さえることが出来るように構築する。特に1年生については、保育内容に関する履修が初めてであることから、保育内容I～Vをどのようなように学び自分の知識として身につけていくかを考えながら、説明内容を精選して授業を組み立てていく。 |
| 高橋 一成 | 教育原理 教育課程論 | 学習内容の定着を図るために「前時の振り返りクイズ」という小テストを実施し、答え合わせしながら解説を加えていった。また、学生が興味を持ち意欲的に学習に取り組めるよう、写真や図等も取り入れた。パワーポイントを毎時間作成するなど、引き続き資料提示の工夫に努めた。特にオンデマンド授業では、パワーポイントに解説を加えるとともに、配信動画も学習内容に合わせて適宜掲載するよう提示資料を作成した。 | 授業内容についての評価は、教育原理ではすべての項目で全体平均を大きく上回ったが、オンデマンド授業の教育課程論では、全体平均程度であった。なお、本授業の予習や復習、課題等のための勉強時間については全体平均以下であり、課題の工夫等、今後の改善が必要である。 | 自由記述では「パワーポイントのスライドがとてもわかりやすい」「先生がとにかく楽しく授業を受けることができた」など全般的に良好なコメントがあった。またオンデマンド授業でも「オンデマンドの中で1番わかりやすかった」「授業資料がとてもわかりやすい」「毎回小テスト（振り返りクイズ）があった。復習できた。なごの声があった。今後もし引き続き「わかりと授業準備等を行っていききたい。」 | 授業で学習する内容をパワーポイントで簡潔に整理し提示することにも、わかりやすいワークシートを作成したこと等が、今回振り返りに努めたこと等が、今回の結果の要因の一つである。また、NHK for Schoolや文部科学省の配信動画等も適宜取り入れた資料作りを心がけたことも、このような結果につながったと思われ。 | 次年度も引き続き、授業の雰囲気づくりやわかりやすい説明、提示する資料の工夫と充実に向けては、オンデマンド授業については、ガイダンスに即り、学生の質問等にメーラーなどで対応していく。なお、課題である本授業の予習や復習、課題等のための勉強時間の増について等々は、授業中に学習した内容と関連したレポート等も適宜課すなど、見直しを十分に図っていく。 |
| 米持 広美 | 指導法特論(家庭) 家庭 子どもの食と栄養 II 乳児保育II | 後期は、演習科目が多かったが、全ての科目でmoodleも利用しながら、対面授業を行うことに取り組んだ。特に、振り返り課題をmoodleに入れさせたことは、学生も取り組み易かった。ただし、次の授業での活用が容易であった。 | Q3-1 学生の「理解度や到達度を確認し、授業を進めていたか」という点に力を入れてきたつもりであったが、前回と変化が見られなかった。また、授業外での学習時間が、同じ科目でもクラスによって異なり、課題にしっかりと取り組んだ学生とそうでない学生の差が見られた。 | 振り返り課題をmoodleに入れたことは、次回の授業の導入で使え、授業準備に有効であった。また、学生にとっても、その場でフィードバックでき、納得感が高かった。一方で、漠然として「学生の理解度を確かめた」という点も、やはり前回は振り返り、自分と照らし合わせてながらフィードバックしてあげたことも工夫が足りなかった。また、課題も工夫が足りなかった。学生によっても取り組みの差がより大きくなると思う。 | 振返り課題をmoodleに入れたことは、次回の授業の導入で使え、授業準備に有効であった。また、学生にとっても、その場でフィードバックでき、納得感が高かった。一方で、漠然として「学生の理解度を確かめた」という点も、やはり前回は振り返り、自分と照らし合わせてながらフィードバックしてあげたことも工夫が足りなかった。また、課題も工夫が足りなかった。学生によっても取り組みの差がより大きくなると思う。 | 今更で、ほとんど振り返り課題ばかりで取り組んできた。しかし、今後は簡単な予習課題を与え、授業内容を把握してうえで授業・演習に取り組んでから授業の振り返り、まとめを行う。そのためには授業構想を明確にして提示し、テキストのページの指示やより効果的な課題提示が必要になってくる。また、課題の授業での活用の仕方と同時に知識・技能としての身につけておくことへの精選も必要になってくる。そのためのmoodleでの振り返りをし、授業改善を図ろうと思う。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|--|--|---|---|---|--|
| 石川千穂子 | 幼児と環境 保育原理 子ども理解 の方法 幼児と人間関係 進路指導Ⅰ 幼児と健康 | 対面授業科目中心であったため、各科目共にパワーポイントやスライドを授業に取り入れた。特に、オンデマンド授業の科目のパワーポイントには、音声で説明を付けて、動画に配信した。幼児と〇〇科目は、実際に模擬保育実施を行うために、必ず指導案提出後それぞれに、必ず人数で指導案審議を取り入れるということを行ってきた。これから実際の保育実践につなげていくというところを、この取り組みは初めてであったが学生の満足に繋がったと考える。 | 学生間でのやり取りや、振り返りしつかりと出来る授業が、満足感のある授業に繋がると考えられる。事例研修などについては、各回のワークシートやスライドを取り入れた工夫を高く評価した。 | 人数が多い授業科目は、積極的にマイクを使用したが、それはマイクを聞き取れた高評価であった。Q3-8の「コロナ対策の授業として満足できるものでしたか」についての幼児と環境は高評価であったが、その他科目については「密ではないか」と感じていた。自由記述に書かれていて、教室の工夫（もったいない）対策が必要だと感じたと質問に対しての説明の詳しさと丁寧さが、高評価に繋がったと考える。 | オンデマンド授業での音声入りの動画配信や学生から又は、学生同士や双方行でのやり取りを丁寧に行っている。配布資料や課題に対しての説明を受け付けていたことが、Q3-3の高評価につながったと考えられる。 | 模擬保育を取り入れた授業実施が学生の満足度につながることが理解できた。更に双方向でやり取りが充実できた。更に提出資料や課題についても分かりやすく見やすさを求め、スライドやパワーポイント等の表示について更に見やすさを意識した工夫をしていきたい。 |
| 菅原 航平 | 教育相談特論 教育相談 子ども家庭支援論 障害児保育Ⅱ 発達心理学 | 対面授業では新型コロナウイルス感染症に対する学生の不安に配慮しつつ、学生間の相互作用が生じる授業となるようにした。また、遠隔授業では前期の反省を活かし、moodleの機能活用を通して学生が取り組みやすいものとなるようにした。 | 科目間の差が大きく、対面・遠隔、講義・演習という授業形態により異なる傾向はみられなかった。Q3-8「コロナ対策の下での授業として、この授業は満足できるものか」という問いに、低い傾向にあり、感染予防と学習活動のバランスを見直す必要があると感じた。 | 良い点は、事例を活用した説明、授業資料の事前配布や予習課題の提示等があった。改善点は、対面授業ではmoodleを使用せず全て紙での課題にして欲しい、授業内容の量が多い、図表をもっと活用して欲しい等があったので意識していきたい。 | 良い点として「コロナ対策が特に厳重だった」というコメントも、学生間の距離や授業内容は慎重に検討したが、学生間のワーク等々を制限しすぎたままの面があり、それがコロナ対策下の授業として満足度に見えていたと考えられる。 | 対面授業では感染予防に配慮しつつ、能動的な学びや学生間の相互作用が生じる課題となるように工夫したい。また、遠隔授業では、学生の反応が見えづ網羅主義的になる傾向があるので、学生の理解度を丁寧に確認しつつ授業を進めていきたい。さらに、対面授業でmoodleを活用して様々な資料を提示することや予習や復習に活用でき良かったという意見があったので、対面授業でmoodleの活用も工夫したい。 |
| 木戸 貴弘 | 体育 幼児と表現 幼児と環境 | 今回はコロナ禍ではあったが、担当授業は全て対面で実施した。前期の反省を踏まえ、対面授業だからこそ行なうことのできる演習や実習を意識的に多く取り入れた。その中で、感染対策を考慮し、これまでのグループワークの在り方（人数等）の再検討や、授業で使用する用具や物の取り扱いについて十分に注意し実践した。 | Q2-1に関する質問（時間外学習の時間）に関して、これまでの結果と比べると若干の改善は見られたがまだ低い値となっている。また、授業の達成目標の到達については他の項目と比較すると若干低い値となった。達成目標については授業の際にも学生と確認をしながら意識して取り進む必要があると感じた。 | 改善点の中で「資料作成の時間がもう少し欲しかった」「グループでの活動の時の練習時間が少なかった」等の記述がみられた。今回はより意識的にペア活動やグループ活動を実施しブレンドやグループ活動や発表の機会を設けた。準備時間の設定や時間外学習に繋げる方策をより検討していく必要がある。 | コロナ禍であるということや資料で集まって練習することや資料作成することなどを原則として禁止した。その結果、準備等の時間が足りず、学生にとっても不完全燃焼であったことも考えられる。感染対策を考慮しつつ、学生にとっても十分な学びが得られるよう内容を考えて行く必要がある。 | 今回はコロナ禍の影響を受け様々なことに注意し授業を実施していった。アンケート記述の中では「人数でもいろいろな意見を言い合えてよかった」「グループ活動が多く友達との仲が深まった」などの意見もあつた。対面で授業を実施できることの意味は非常に大きいと感じている。制約を受ける中ではあるが「授業内で行なうこと」「授業時間外で行なうこと」をしつかりと学生に示すことが学びへと繋がりを、併せて感染の予防にも繋がると考えられる。授業の目標を明確にすることにも、学生にとって有益な授業展開となるよう事前の準備から取り組んで行く。 |

| 教員名 | 科目名 | 今回の改善点 | 評価結果の受け止め | 自由記述の受け止め | 結果の要因 | 授業改善プラン |
|-------|---------------------------------|---|--|---|--|---|
| 大元 千種 | 保育原理 幼児と言葉 | 対面授業が主であったが、途中でオンライン授業が必要であったため対面授業や課題を配布した。また、すべての授業資料を moodle にアップして欠席者も確認できるように配慮した。学生同士の意見交換や発表を工夫した。 | 回答率が1年生で57.45%、2年生で42.61%という数値に学生への学びの意識の低さを感じた。貴重な評価であるが、評価は全体平均より下回るものの概ね良好であったが、Q3の項目について説明が低いが、教材使用や説明について不十分などところを反省した。 | 配布資料や課題が多いことがあげられていたが、必要な資料であり課題である。オンライン授業の資料も moodle にアップしてはいたが、それを各自で確認しダウンロードすることは学生に負担になるため多くなると考えた。 | 資料が多すぎてごちゃごちゃになりという意見について、きちんと科目毎、授業回数毎で資料や課題を整理できていない学生が多い。また、対面授業でも説明を聞かず、課題をする必要があるが、大半は理解できていないので、学生の受講態度や資料整理の問題に起因するところを大きく考える。 | 対面授業であっても、オンラインに対応できるような授業資料や課題を moodle にアップすることには引き続き行う。課題を出しておいては、きちんと授業資料や返却課題を整理することができよう、まず指導していきたいと考えている。また、対面であれ、オンラインであれ、学生同士の意見交換や情報共有、学生の主体性を尊重した授業を行うよう工夫をしたい。さらに、課題発表だけでなく、できる限り学生の実践の場を授業で設けていけるように授業時間の配分を工夫したい。 |
| 仙波 和代 | 災害支援と防災対策 | 本講義は今年度より始まった新規科目であった。外部講師を招き講義や演習を行う授業であったため、後期も全て対面で行った。しかし最終授業のワークに関しても、講師が東京から来学予定であったため、講師はオンラインに切り替えたが、学生は講義室に集まって討論を行ってもらった。講義は事前レポートと出席、授業への積極性で評価を行った。 | 数値的には全体平均よりやや下回っているが、その割合を見ると、「5」「4」が圧倒的に多く、「3」「2」がほぼ0で、「1」をつけている学生が1名いた。 | 2コマ連続の授業は、飽きたり眠くなったりしている様であった。しかし、専門家の方から直接多くの事を学べる事に関心は評価が高く、比較的有意義な授業であったのではないかと受け止めることが出来る。 | 「5」「4」が圧倒的に多く、「3」「2」がほぼ0で、「1」をつまみ選択科目であるにも関わらず、興味なく選択した学生が1名いたため、数値が平均より低くなった。また、考えられる科目であり、また少人数でのワーク等を積極的に取り入れる。人数の上限も設定している。よって興味のない学生さんは選択する必要はなく、事前に授業概要を説明する機会があればお互いに良かったのかもと考えると考える。 | ①2コマ連続の授業に関して「講師が2名いた。次年度は2コマ連続授業ではなく、1コマ授業、2コマワークのような形式に改善する。 ②「1」回目の開催日をメールで知らせたい。2回目の開催日を知らなかったのは短大の学生だけであり、4大の方は全員出席している。これは恐らく私だけでなく教務サイ掲示板、moodle 内授業掲示板には、比較的早い時期から周知事項は、教務と相談しながら、短大の学生にも的確に伝わるように改善していく。 |
| 岩本 貴光 | 身体表現 スポーツと健康 保健体育B（実技を含む） | 新型コロナウイルスへの対応を第一に考えながらおこなった。教科の特性から対面授業とオンライン授業をミックスさせ、より学生が授業に興味関心を持って授業展開を心がけた。特に学生たちが達成感、充実感を授業終了後、実感できるように内容を通常より分りやすく丁寧に行った。 | 授業評価は、ほぼすべての面において平均を上回る評価を得ることができた。特に、対面授業への期待値が高いため、その点を工夫して行ったことが高評価につながった。 | 概ね、内容が充実している達成感を感じる授業との評価を頂いたが、一部、オンライン授業の課題が難しいとの評価があった。 | やはり授業の特性から、体を動かすことに重きを置き、活動を行うことととの爽快感を感じさせることの必要性を重視した点が良かった。オンライン授業の課題に関しては身近な問題に視点を置き学生らに考えさせる課題を精選できたことが良かった。 | 2点ある。まず1点目は、授業展開の工夫の中でオンライン授業の出席確認の際に、授業時間内アクセスをすることと課題の提出両方でワンセットにしていて、オンライン授業時は引き続き行っているが、オンデマンドとみならず、といった方法の方が学生との移動や電波の不都合などで欠席になることがあるとの苦情があった。2点目は、課題の量を今一度考える必要がある。他の授業もオンライン授業となり、学生らの課題が非常に多い現状がある。作業能力の低い学生には期間が短すぎたため、もう少し長いスパンが必要である。 |

令和2年度 授業評価報告書

編 集：別府大学短期大学部 FD 委員会
発行年月日：令和3年3月31日